
私立幼稚園における 学校評価実施支援 システムに関する研究

—教育の質の向上を支援する関係者評価—

目次

●はじめに.....	3
●本研究の概要.....	4
1. 学校評価の概要	5
2. 学校評価の現状と課題	7
3. 公開保育を活用した第三者評価.....	9
4. 公開保育コーディネーター（評価者）養成講座.....	10
5. ①学校評価実施支援の一環としての学校関係者評価.....	14
5. ②学校関係者評価委員会の取組事例.....	16
5. ③公開保育に参加した学校関係者評価委員のアンケート	31
6. 公開保育コーディネーター（評価者）による公開保育以降に保育の質は どのように深まっていったか（概要）.....	38
7. まとめ	62
■私立幼稚園における学校評価実施支援システムに関する研究検討委員会	66
■協力者	66

●はじめに

学校評価に必要なこと

公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 理事長 田中雅道

学校教育を行う上で、一人一人の幼児がどのような成長をしてきたかという視点で個の育ちの評価を行うと共に、それぞれの教師が幼児に対して良い教育を提供できたかどうかの評価を行うことが重要な視点です。教育の現場は、常に教師と幼児が一体となった空間で構成されており、その両者が共同で、歩調を合わせることによって、良い教育空間が構成されていきます。両者に共通した空間における評価を行なうことが重要なのです。

特に、幼稚園教育においては、良い指導計画を立てることはもちろん大切ですが、教師が指導計画どおり保育を進めることにのみ主眼を置き、幼児との相互関係によって保育を進めていくという視点が抜けてしまえば、良い教育空間とは言えません。幼児が主体的に活動する空間が確保され、幼児が自分の力で、自分の周囲にある様々な事象を意味付けし、自分の可能性を深化・発展させる領域を広げていくというベクトルが重要です。従来からの日本の幼稚園で大切に守ってきたこのような視点が、OECDを中心とする先進諸国において、教育における中核課題とされている問題解決型学力の育ちの根幹を形成しているという知見が広がり、幼稚園教育の重要性が再認識され、幼児期からの一貫した教育行政の重要性が強調されています。

幼稚園教育に評価概念を導入する場合、指導計画がうまく作成されているのかという視点だけで書類審査で評価を行うと、良い計画を作成することだけに力点が置かれ、幼稚園教育の本当の意味での質の向上には何の役にも立ちません。教育の質を向上させるため、教師が保育を進めていく上で、常にどのような問題意識を持ち、今、目の前にいる幼児の育ちに必要環境とは何かを自問自答する作業の中にのみ解決策を見付けることができます。

このような教師集団を支えていく上で、園長のリーダーシップも幼稚園教育の質の向上には欠かせない重要な要素となります。現状に満足するのではなく、常に向上を目指していく集団として教師集団が機能しているかどうかという視点が、幼稚園としての学校評価を行っていく上で最も大切な視点なのです。

●本研究の概要

本研究は、私立幼稚園の協力を得て（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構（以下「本財団」という）が私立幼稚園における学校評価の推進のために、学校関係者評価の活性化及び公開保育を活用した学校評価実施支援システムの構築を図ろうとするものである。

私立幼稚園における学校評価の実施に当たっては、建学の精神に基づく実践を展開する中で表出する各幼稚園の課題を解決し幼児がより良い保育を享受できるよう、園自ら保育活動等の成果を検証し、園運営の改善と発展を目指し保育の質向上を図ることが重要である。それには、園長のリーダーシップの下に全教職員が自己評価に主体的に取り組み適切に説明責任を果たしていく必要がある。また、その取組の客観性、透明性を一層高めていくために学校関係者評価にも積極的に取り組むことが求められる。自己評価の実施率については年々その実効性を高め、文部科学省「学校評価等実施状況調査」によれば 83.0% であるものの、学校関係者評価のそれは 41.6% に止まっている。こうした傾向は、学校関係者評価が義務ではなく努力目標となっていることもあるが、具体的な学校関係者評価の実施方法が分からないことや小学校以降の学校と比較して規模の小さい幼稚園では日常の教育活動に加えて評価活動に取り組むことが厳しい現状があると考えられる。

平成 25 年度文部科学省委託事業「幼児教育の改善・充実調査研究」においては、「私立幼稚園における学校評価実施支援システムに関する研究検討委員会」を設置し、第三者評価の一手法としての公開保育、並びにその前後に自己評価、課題の解決等に対しての支援を行うコーディネーターの養成についての調査研究を行った。

公開保育に係る調査研究において、公開保育実施園の教諭からのアンケートから、「学んだ内容は自園の園内研修や話し合いを活発にするために有効である。」に対しては「非常にあてはまる」、「あてはまる」の合計が 91.5%、「学んだ内容は園の保育者同士の関係性をよくするために有効である。」に対しては「非常にあてはまる」、「あてはまる」の合計が 85.7%、「学んだ内容は園の課題解決や保育の質の向上に有効である。」に対しては「非常にあてはまる」、「あてはまる」の合計が 93.4%、という結果となった。この手法は園の実情を理解した上で課題を明確にし、方向性を示してくれる評価であり、保育の質向上に有効であることが明らかになった。

そこで、本研究ではコーディネーターの養成と公開保育を活用した学校評価実施支援システムの充実を図りながら学校評価実施支援の一環として学校関係者評価を活性化し、理解されにくい幼児教育の質や成果について保護者や地域社会と共有し、結果として教育の質の向上を支援する仕組みとなるよう実施・検討を行う。また、自己評価並びに学校関係者評価の実施率向上についても検討を行い、その有効性を高めるものとしたい。

1. 学校評価の概要

各幼稚園は、教育活動や学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。

(1) 学校評価の目的

幼稚園における学校評価の目的は以下の3点である。

- ①各幼稚園が、自らの教育活動その他の園運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、幼稚園として組織的・継続的な改善を図ること。
- ②各幼稚園が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、幼稚園・家庭・地域の連携協力による園作りを進めること。
- ③各幼稚園の設置者等が、幼稚園における学校評価の結果に応じて、園に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

(2) 学校評価に関する規定

学校評価については、学校教育法第42条（幼稚園については、第28条により準用）及び学校教育法施行規則第66条から第68条（幼稚園については、第39条により準用）により、次のことが必要となる。

- ・教職員による自己評価を行い、その結果を公表すること。
- ・保護者などの学校の関係者による評価（「学校関係者評価」）を行うとともにその結果を公表するよう努めること。
- ・自己評価の結果・学校関係者評価の結果を設置者に報告すること。

学校評価を通じて、質の高い幼児教育を提供し続けることにより、保護者や地域住民等からの高い評価と厚い信頼に支えられた私立幼稚園として存在することができる。

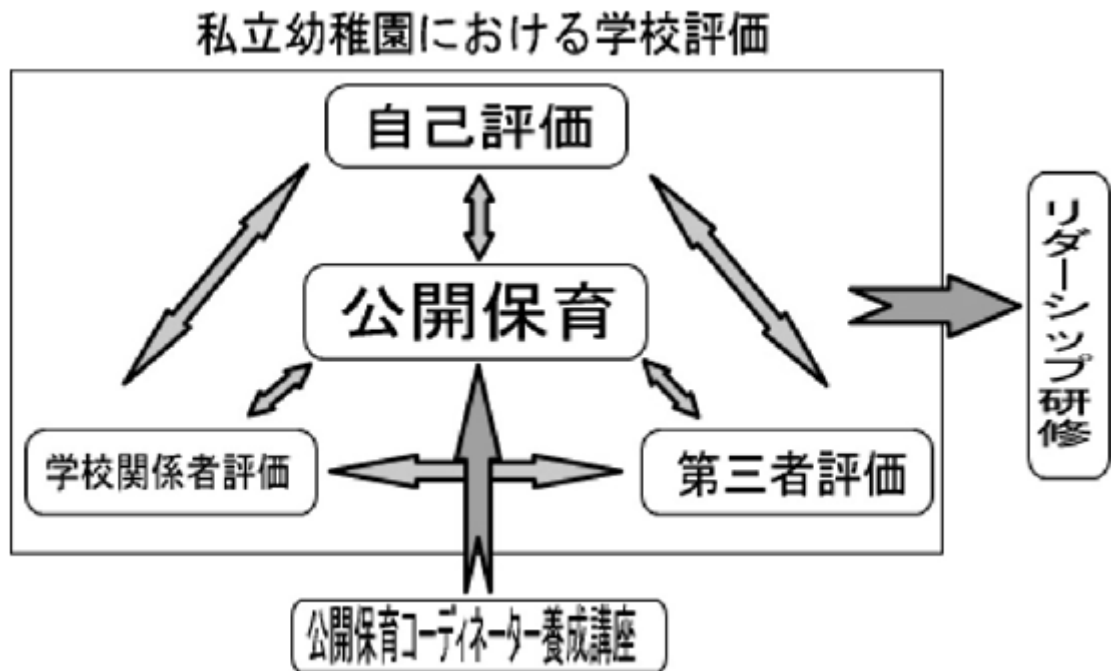
(3) 私立幼稚園における学校評価実施支援の構造

公開保育に自己評価や学校関係者評価を有効に活用することに加え、自園の良さや課題などを認識するためには「第三者評価」が有効である。その第三者評価の特徴としては、幼児教育やマネジメントなどの専門的視点からの評価によって、直接当該園とは関係のない視点からの評価ができるようになる。そして、客観的な視点による園の取組理解や課題の改善、運営の確認などが期待できるようになる。第三者評価は、正に自己評価や学校関係者評価のチェック機能を果たすことにもなる。

このような第三者評価の実効性を高め、私立幼稚園の理念や地域を理解できる評価とするためには、公開保育による実施が有効である。公開保育によってその園の良さや課題を共有し、課題解決や新たな課題を知ることで公開保育実施園のみならず参加者の園における教育

の質向上にもつながると考えられる。

私立幼稚園における学校評価の実効性を高めるためには、園長のリーダーシップの下、学校評価を行うに当たり、園長としての役割を含め、特に園長のリーダーシップが重要である。そのため、リーダーシップをより発揮できるための研修の実施が必然となる。また、特に、公開保育の実施においては、公開保育における自園の理解や、園の課題、課題改善に向けてファシリテーションするコーディネーターの養成が必要不可欠となる。



○自己評価と公開保育の関係

自己評価と公開保育の関係は、第三者評価を実施するに当たり前年度の評価結果、今年度の指標による教育課程の評価や日々の保育の評価の実施に関する確認、公開保育コーディネーターによる園理解の深まりを可能にする。

○学校関係者評価と公開保育の関係

幼稚園の保護者や地域住民を含めた学校関係者などで構成する7、8名の評価委員会による学校関係者評価を入れ込んだ公開保育において、委員に当該幼稚園の教育方針や取組課題を提示され、委員が当該幼稚園の教育活動の実態を理解しつつ園教育全体の理解を深めることを通して、地域に開かれた幼稚園作りの一翼を担っている。

○第三者評価と公開保育の関係

公開保育を活用した第三者評価において、養成された公開保育コーディネーターが主体で公開保育を実施することによって、自己評価や学校関係者評価の実施状況を把握することが可能となるとともに、当該幼稚園の実情や課題の把握、改善に向けての方向性や方策の端緒に気付くことができ、保育の質向上につなげることができる。

公開保育を活用した学校評価実施支援システムの充実を図りながら学校評価実施支援の一環として学校関係者評価を活性化し、理解されにくい幼児教育の質の成果について保護者や地域住民等と共有し、結果として教育の質向上を支援する仕組みになるよう実施・検討を行いたい。また、自己評価並びに学校関係者評価の実施率向上についても検討を行いつつ、学校評価実施支援システムの有効性を高めていきたい。

2. 学校評価の現状と課題

幼稚園における学校評価については、平成14年4月に施行された幼稚園設置基準において、各幼稚園は、自己評価の実施とその結果を公表に努めることとされた。その後、平成19年6月に学校教育法、同年10月に学校教育法施行規則が改正され、幼稚園を含む全ての学校に自己評価・学校関係者評価の実施・公表、調査結果の設置者への報告に関する規定が新たに設けられ、学校評価が幼稚園に本格的に取り入れられていくことになった。幼稚園における学校評価の目的については、上記のとおりである（1.（1）参照）。

幼稚園における学校評価の実施については、全ての幼稚園が学校評価に取り組むまでには至っていない。それは、幼児教育の特質を踏まえると、その成果を評価していくことが難しいこと、小規模な園が多いため取り組む余裕がないこと、また、外部の関係者等を招いて会合を重ねる学校関係者評価は更に負担であることなど、いろいろな理由があると察せられる。

しかし、自己評価を実施することによって、教職員一人一人が実践している日々の保育や運営に関わる様々な教育活動について共通理解を図り、園全体の協力体制を構築することができるということを認識し、組織の一員としての自覚を持つことが望まれている。

本財団としても、保育内容の質向上や教職員の資質向上のために実施される評価となるよう、公開保育を活用した私立幼稚園にふさわしい第三者評価を提案している。福祉施設における第三者評価と教育施設におけるそれは、設立の意義と目的からそれぞれにふさわしい評価方法があるものと推察される。幼稚園が学校評価によって課題を見付け、その解決に向けて全教職員が取組の方策を検討し共通理解を図ることが園全体の質向上に寄与するものと考えられる。

各園において、創意を生かした学校評価を実施し、自己評価から学校関係者評価、そして情報公開に向けての取組を今後、更に推進していくことが大切である。

（1）自己評価

自己評価は、園長のリーダーシップの下で全教職員が参加し、設定した目標や具体的な計画等に照らして、その達成の状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価を行うものである。

自己評価の実施に当たっては、まず重点的に取り組むことが必要な目標（重点目標）を設定し、その重点目標の達成に向けた具体的な取組等を評価項目として設定する。評価項目は重点目標をより具現化したものであり、目標の達成状況を把握するものと、達成に向けた取組の状況を把握するためのものがある。重点目標、評価項目とも、現場の声が反映されるよ

う全教職員が参加して設定することが望ましい。

また、自己評価をまとめる際には、保護者等から寄せられた具体的な意見や要望、アンケート等の結果も活用する。

(2) 学校関係者評価

自己評価の客観性や透明性を高めていくために、学校関係者に対して意見を求めていくことが重要になってくる。学校関係者評価委員は保護者だけでなく、地域住民、小学校や中学校の教員など幅広く人選されることが望ましい。

自己評価の結果を学校関係者評価委員会に提出し、信頼性や妥当性の観点から自己評価を検討することにより、自己評価の客観性や透明性を高めていくことになる。限られた会議回数や時間の中で、より良い教育実践や園運営につながる実りのある評価としていくためには開催の仕方、その資料、更には評価の仕方等についての配慮や工夫が必要である。

評価項目を絞り、園が教育活動で力を入れているところや課題等に焦点を当て、判断に必要な資料を分かりやすく提示しながら意見を聴取するといった方法も考えられる。また、議論や意見の中に園運営の改善につながることもあると思われるので、意見交換が活発になされるような配慮も必要となってくる。

(3) 第三者評価に向けて

文部科学省「学校評価ガイドライン（平成 22 年改訂）」の「1. 学校評価の目的、定義の流れ ②学校評価の定義及び留意点」によれば、自己評価は、「各学校の教職員が行う評価」、学校関係者評価は、「保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価」、第三者評価は、「学校とその設置者が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、自己評価や学校関係者評価の実施状況も踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について専門的視点から行う評価」とある。第三者評価に関しては義務化されていないということもあり、ほとんどの園で実施されていないのが現状である。

本財団は、第三者評価の実施体制を、①学校関係者評価委員会に学校運営に関する外部の専門家を加え、学校関係者評価と第三者評価の両方の性格を併せ持つ評価を実施、②一定の地域内の複数の学校が協力して、互いの学校教職員を第三者評価の評価者として評価を実施、③学校運営に関する外部の専門家を中心とする評価チームを編成して評価を実施するという 3 パターンから考えてきた。

しかし、評価者が幼児教育を理解しているのか、また第三者評価を実施して本当に保育の質向上につながっていくのか、といった不安が平成 22 年度に実施した本財団のアンケートで数多く出されていた。

そこで平成 23 年度に第三者評価を実施した私立幼稚園 2 園の現地調査を行った結果、手法としては書面等による定量評価が主で、実際の保育場面の観察はほとんどなく、運営面での効果は一定あるものの、保育の質向上は期待できないということが報告された。実施園か

らの要望では、園の実情を理解した上で課題を明確にし、方向性を示してくれる評価や負担のかからない評価の2点が求められた。

以上の点を考慮し検討を重ねた結果、日常の保育を公開し、当日の保育場面を基に保育後カンファレンスを行い、互いの視点で話合う過程でその園の課題や良さが浮かび上がってくるような形態の第三者評価が、他の実施体制に比較して最も取り組みやすいという結論に達した。

今後その運用方法を更に検討し、評価者の専門性の向上に取り組み、社会からも信頼される評価体制の構築が期待される場所である。

3. 公開保育を活用した第三者評価

(1) 自己評価の取組を支えるために

公教育を担う私立幼稚園としては、独自性を失わずかつ独善には陥らないために学校評価に取り組んでいく必要がある。しかし、義務教育を担う小学校以降の学校などと比較して規模の小さな幼稚園においては、学校評価の取組を園内だけで充実させることは甚だ難しい状況にある。また自己評価を実施している幼稚園においても、自己評価が適切に園の課題改善に資するものとして、教育の質向上に十分に活用されているとは言い難い面がある。そこで自己評価をより実質的な意義のあるものとなるように、また学校関係者評価を含めた学校評価全体の実効性を高めるために第三者評価の支援が求められている。そこで、まずは公開保育を活用した第三者評価システムを提案したい。

(2) 公開保育を活用する第三者評価の在り方

現在、保育所等の実施している福祉サービスの第三者評価、あるいは行政による監査は、書類に基づくチェックリスト方式が主流で、全く同一の尺度で定量的に評価していくものであり、保育の質向上に直接寄与するものとは言い難い面もある。また、幼稚園によっては、第三者の専門家が保育の現場を見るという点で公開保育という形態を導入しているものも見受けられる。しかし、公開保育というと、ともすると従来荒さがしや細かい違い、的外れな質疑や議論、講師や助言者の裁断、あるいは建前的な「褒め合い」などで終わる形式的な弊害が指摘され、公開園からすると、「二度とやりたくない」と敬遠されがちであった。

本財団が指向する第三者評価システムは、そうした弊害を乗り越えるべく、保育のポイントを焦点化した公開保育を活用し、第三者の教育の専門家の視点を取り込み、保育の質向上につながるように公開園の良さや課題を明確にし、自己評価へとフィードバックする、というものである。

具体的には、一定の地域内の幼稚園が協力して保育の公開を行い、「幼児の姿から保育が考えられているか」、「それに応じて手立て（環境や具体的なかかわりやその仕掛け）が考えられているか」、「それが幼児の姿に照らしたときどうであるのか」等の、当該園の幼児の姿を中心に幼稚園教育要領の理念に基づいた視点で、幼児の育ちや公開園の良さを再確認したり、自園の課題をオープンにし参加者からアドバイスや意見交換をすることとしている。公

開に当たって観点を「問い立て」することで、その日の保育の中での幼児の姿、保育の営みについて、参加者が感じたその園の良さや、共感したりあるいは疑問に感じたりしたこと等を話し合い、当該園の課題の解決や環境の構成の見直し、新たな園内研修の手立て等を見出すなど、公開園が「やってよかった公開保育」と言えるものを活用し第三者評価へとつなげるものである。

しかし、それは単に公開保育をすればできるものではない。

(3) 公開保育コーディネーターの存在

本財団が指向する第三者評価システムには、公開保育を一連のプログラムの中に織り込み、コーディネートする役割を担う、公開保育コーディネーターの存在が不可欠である。

公開保育コーディネーターは、公開保育の前提として公開園へのヒアリングやワークを重ねながら、公開園の保育を尊重しつつ、課題に向き合う姿勢を引き出し、公開に当たっては、地域内の他園の教員等、専門家としての第三者、更に保護者や地域住民等の関係者などから、多様で、重層的な知見、意見、アイデアを引き出せるように支援し、それらを公開園が吸い上げて園の教育の質を高めていくような「触媒者」としての役割を担う。公開保育をイベントのような点として終わらせず、公開を含めステップを通じた過程の中で公開園が教育の質向上を志向する自律的かつ主体的な営みを第三者評価として認め、ひいては公開園の自己評価にフィードバックするように支援し、学校評価全体の実効性を高めるように努める役割を担う存在である。

4. 公開保育コーディネーター（評価者）養成講座

(1) 公開保育コーディネーター（評価者）養成講座の意義

公開保育を活用した第三者評価の評価者は、本財団が中心となって担うことになるが、この第三者評価システムを幼児教育の質向上に確実につなげる実効性の高いものにするためには、公開保育に至るまでの取組、更に公開保育後の振り返りというプロセスの充実が欠かせない。そこで大きな役割を果たすのが、公開保育コーディネーターである。公開保育をきっかけに、教職員が話し合いに主体的に参加したり、幼児の姿から保育を語り合えたりする土壌が醸成されるよう支援していくことは、公開園や社会における幼児教育の質向上に対して大きな責任を担うものであり、誰にでも容易にできるものではない。そこで、その任にあると自負している本財団が共通のカリキュラムを持って、専門性ある公開保育コーディネーターを計画的に全国規模で養成することで、その責務を果たしていきたいと考えている。

(2) 公開保育コーディネーター（評価者）の専門性

公開保育コーディネーター（評価者）には、「保育についての理解」、「幼稚園運営についての理解」、「ファシリテーションについての理解と進行」の3つの資質が求められる。このうち「保育」と「運営」については、幼稚園等の現場における経験年数10年に加えて、カリキュラムに示された部分の研修が必要であるが、本財団が研修俯瞰図に基づき同等の内容と認定する研修の受講を持って代わりとすることができる。

一方、「ファシリテーション」は、公開保育コーディネーター（評価者）養成講座の中で特に重点的にレベルアップを図りたい資質である。公開保育コーディネーター（評価者）の役割は、公開園の優劣を独断で評価することではなく、公開園の教職員等が主体的に自園の良さや課題に向き合えるように支援することである。具体的には、会議や園内研修の場で全ての教職員の意見が尊重され、話し合いが活性化し、幼児の姿から保育を語り合い学び合うような風土作りを支援することを基盤にして、公開園の教職員等が優れた取組や改善の方向性を明らかにし、自ら答えを導き出していくプロセスを支援していくことである。それが、結果的には、公開園の保育の質向上につながっていくことになる。そのためには、ファシリテーターとしての専門性が必要で、この資質はファシリテーションの実践的な研修の場で意識的に身に付け向上させていかなければならない。

(3) 公開保育コーディネーター（評価者）養成講座

本財団では、平成25年度から公開保育コーディネーター（評価者）養成講座を開設し、1年間のカリキュラムの下、研修を行い、公開保育コーディネーター（評価者）としての認定を行っている。ファシリテーションの基本を理解するための講義、公開保育を活用した第三者評価の実際（Step1～Step6）を理解し経験するためのワークショップ、振り返りのレポート作成などが必要となる。

平成25年度は各都道府県から1名、計50名の公開保育コーディネーター（評価者）の養成を行ったが、今年度は各都道府県から2名程度の受講者を募り、全体で約80名が養成講座に参加した。岡健大妻女子大学教授による事前講義を平成26年6月に東京会場にて行った。その後、公開保育に向けての取組、公開保育後の振り返り等は各地区で行い、平成27年1月に京都会場でまとめの養成講座を開催し、今年度の全課程を終了した。

内容の詳細は以下の通りである。

日程

6月20日	東京・グランドヒル市ヶ谷 ○オリエンテーション（11：00～12：00） ・趣旨説明 ○事前講義（13：00～17：00） ・「公開保育」について	 ▲ 6/20 事前講義
※各地区 で実施	○公開保育 ○分科会 ○全体会 ○コーディネーター振り返り	
※各地区 で実施	○ファシリテーションワークショップ	
1月21日 22日	京都・京都ガーデンパレス ○1日目（15：15～18：00） ○2日目（9：30～15：30）	 ▲ 1/21・22 まとめ

※地区／北海道、東北、関東、東京、神奈川、東海北陸、近畿、中国、四国、九州（10地区）

（4）公開保育コーディネーター（評価者）養成講座のポイント

養成講座では、次のような内容を重点的に取り組んだ。

STEP 1 事前訪問

公開園に対して、課題の発見、質の向上、同僚性の育成等、公開保育を活用した第三者評価の意義を丁寧に説明することが大切である。

園長・主任へのヒアリングにおいて、園の課題等必要な情報をより確実に聞き出すためには、今年度新たに作成したヒアリング記入表のひな型を利用するとよい。

事前訪問は、公開園との信頼感を築く第一歩としての意義も大きい。

STEP 2 事前研修

アイスブレイクを行い、和やかな雰囲気ワークショップに入れるようにすることが大切である。

田の字法を使ったワークにより、①「園の強み」、②「課題」、③「課題の障壁や不安」、④「こうでありたいという理想や夢」を出し合うことで、園の良さや課題が明確になり、課題解決に向けての見通しなどを教職員間で共有すること

ができる。

良さと課題、両面に出てくる意見が、最終的にその園の大きな課題となる可能性が高い。

STEP 3 準備

保育のどこを見てほしいのか、何を教えてほしいのか、その視点を記した「問い」を作成していくプロセスが重要であり、「問い」はテーマと連動する。

「問い」を立てることはあくまでも公開園が行うが、その過程において、そもそも何を知りたいのかという「足場」の確認や、別の視点を提示する「糸口」探し、話を碎いていく「具体化」の作業を教職員と一緒に進めていくことが、公開保育コーディネーターとして求められる。

STEP 4 公開保育当日

公開保育の参加者から貴重な「フィードバック」が得られるよう、分科会においても「対話の仕掛け・仕組み」が必要である。

分科会においては、話しやすい雰囲気作り、話合いの「見える化」に留意するとともに、限られた時間の中で公開園にとって実りある話合いになるよう適宜介入する。

STEP 5 振り返り

公開保育当日の参加者の意見を、「課題度と充実度」、「時間と主体」などの軸を用いて整理することによって、公開園の教職員が課題を明確にし、改善の方向性を共有できるようにする。

公開保育コーディネーターの役割は、コンサルタントでもアドバイザーでもなく、ファシリテーターであるため、「答えは公開園の教師たちの中にある」という意識で、教職員等の思いを鏡となって映し出すような構えが大切である。

公開保育コーディネーターとして一定のゴールイメージを持っていた方がよいが、そこに向かって過度に誘導的にならないよう配慮すべきである。

STEP 6 評価の実施

「幼稚園教育要領の観点」、「組織風土の醸成・学び合い育ち合う仕組みへの取組という観点」から、評価レポートを作成する。

課題等の背景について専門的な視点から分析を加えるなど、専門家による評価ならではの工夫が求められる。

(5) 公開保育コーディネーター（評価者）養成講座のまとめと今後の取組

今年度も、公開保育コーディネーター（評価者）養成講座受講者よりアンケートの回答を得た。それによると、「公開保育を活用した今回の取組は、公開園が自園の良さを確認したり課題を見付けたりすることに関して有効である」の問いに対しては、回答者の100%が「非常にあてはまる」「あてはまる」を選択している。また、「公開保育を活用した今回の取組で、外部の参加者からの意見等は公開園の保育の質向上に関して有効である」の問いに対しても、回答者の97.2%が「非常にあてはまる」「あてはまる」を選択した。公開保育という場を通して外部の視点から意見をもらうことが、いかに実効性の高い有効なものであるかを、受講者自ら改めて認識した結果といえる。

しかし、この第三者評価実施支援システムが機能するためには、公開保育コーディネーター（評価者）の存在が絶対的に欠かせない。平成25年度、26年度に渡って、全国で130名程が認定されたが、多くの地区においては、まだ足りないのが実情である。アンケートの記述にも「公開保育コーディネーター（評価者）が複数いることにより問いの作成や準備も相談しながら進めることができる」とあるように、公開保育を活用した第三者評価にはコーディネーター（評価者）がチームとしてかかわることが理想である。そのため、平成27年度も引き続き、公開保育コーディネーター（評価者）養成講座を開催する予定である。また、既に認定を受けた公開保育コーディネーター（評価者）が更なるスキルアップを図れるよう、養成講座修了者を対象に各地区においてフォローアップ研修を行うことによって、公開保育を活用した学校評価のシステムが十分に機能するよう、万全の体制を整えていきたいと考えている。

5. ①学校評価実施支援の一環としての学校関係者評価

(1) 教育の質向上を支援する学校関係者評価

教育の質向上には、園長のリーダーシップの下に全教職員が自己評価に主体的に取り組むことがまず必要である。そして、その取組の客観性、透明性を高めるには学校関係者評価、第三者評価に取り組むことが求められ、それらが相互に有効に機能していくことが、教育の質を高める継続的な園の取組につながっていく。

特に、学校関係者評価は、評価者が、その名の通り、園に直接関わる保護者や地域住民等であるため、定量化が難しく一般に理解されにくい幼児教育の質や成果について、園を取り巻く関係者と共有を図る貴重な機会となる。学校関係者評価を通じて、幼児教育における質や成果の考え方が共有できれば、学校関係者は単に評価者ではなく、例えば保護者や地域社会の代表として、教育の質向上に取り組む幼稚園の強力な応援団となる可能性が高い。

公教育の一端を担う幼稚園は、社会の財産である幼児を家庭や地域社会等と共に育てていく場である。園運営及び保育実践に、保護者や地域住民等の理解と支援は不可欠である。

保育理念はもとより、教育の質向上のための具体的な保育実践の取組まで理解している保護者や地域住民等の存在が、幼稚園が教育の質を高めていく上で大きな支えとなり、推進力となることは間違いない。幼稚園の教育の質向上を支援する上で有効な学校関係者評価の活性化を目指したい。

① 学校関係者評価の課題

私立幼稚園の学校関係者評価の実施率は、平成 20 年度間の学校評価等実施状況調査結果では 24.3%、平成 23 年度間の同調査では 41.6%となっており、実施率は向上しているものの、広く行われているとは言い難い状況にある。

実施率が低いのは、自己評価と異なり、学校関係者評価が義務ではなく努力目標となっていることが一因と考えられるが、それとともに、具体的な実施方法がわからないことや小学校以降の学校と比較して規模の小さい幼稚園では日常の教育活動に加えて評価活動に取り組むことが難しい現状もある。

「委員の選定・依頼が難しい」、「法人の評議員との違いがわからない」など、学校法人が設置した幼稚園においては、法人の運営において実施されている評議員会が、学校関係者評価と同じような役割を担っていることから、別の評価委員会は不要なのではないかという誤解もある。評議員会は、法人の経営や経営判断を行っている理事会の諮問機関であり、主として経営部分をその任としている。一方、学校関係者評価は、自己評価が中心であり、役割が異なることを理解する必要がある。

また、取組の事例が少ないため、実施に当たっての委員の選任や会議の方法・準備、意見の反映方法や情報開示など、具体的な実施方法の例を伝えていく必要がある。特に、公開保育を活用した学校評価実施支援システムに、関係者評価を組み込んでいく方法が確立され、それが周知されていけば、有用な学校評価方法の一つとして普及していくと考えられる。

② 学校関係者評価の実施方法

学校関係者評価は、自園の自己評価について、保護者や地域住民など、学校に直接・間接的に関わっている関係者などの委員が、その内容を把握し、意見交換するなどして、学校運営向上のための評価を行うことである。

実施する上での基本的な事項として、以下の点が挙げられる。

○評価委員の選定

幼稚園における学校関係者評価は、その幼稚園と直接、関係のある者を評価者とすることが適当であり、その際、幼稚園と密接な関わりを有する保護者が、学校評価とそれを通じた学校運営の改善に参画することが重要である。このことから、その幼稚園に在籍する幼児の保護者を評価者に加えることを基本とする。

保護者のほかには、次のような人選が考えられる

- ・ 地域を代表する者（自治会役員、地域コミュニティ関係者、地元企業関係者等）
 - … 地域に開かれた幼稚園を目指すという観点から
- ・ 小学校関係者 … 小学校教育との接続を考慮
- ・ 幼児教育の専門家（大学教員、地区の幼稚園団体役員等）
 - … 教育内容への助言
- ・ 青少年育成関係団体、警察関係者等

… 子供の健全育成・安全確保の観点

いずれにしても、学校関係者評価委員には、幼児教育を前向きに考え、幼稚園に適度な助言ができる関係者に依頼することが大切である。なお、幼稚園からは、理事長、園長、主任等の出席が考えられる。

選定する評価委員の人数については、意見が偏り過ぎず、話し合いがしやすい人数として6人から8人程度が一例として考えられるが、園の規模等、各園で実施する学校関係者評価の内容等を考慮して必要な人数を選定する必要がある。

○委員会の進め方（年間の見通し）

評価委員会活動に当たっては、初めに本年の目標を提示すると共に、自園の概要について伝える必要があるため、まず4月あるいは5月に第1回目を開催することが考えられる。次に、実際に幼稚園の様子を見る機会を1、2回程度持つことにより、幼稚園生活の姿を理解し、疑問点や問題点を指摘してもらう機会としたい。さらに、年度末に、まとめとして委員会を開催し、翌年度への課題などを提起する機会として、学校関係者評価活動の継続性を高める機会としたい。

以上のことを考えると、年間3、4回程度の委員会開催が適当と考えられるが、各園の実情や評価委員の負担等を考慮して計画・実施していくことがよい。

<公開保育を活用した第三者評価と併用する場合>

公開保育は、実際の幼稚園生活での姿や自己評価に対する園の改善の取組についてわかりやすい機会となるため、公開保育を活用した学校評価支援システムに学校関係者評価を組み込むことは、規模の小さい幼稚園で評価活動を充実させる上で有効な方法の一つと考えられる。

実施する際は、学校関係者評価委員会開催の日程や公開保育当日のスケジュール、資料の準備等、できるだけ重複作業が発生せず、かつ効果的に評価活動が行えるよう留意して、事前に計画を立てておくことよい。

具体的には、全体会や分科会とのタイムスケジュールを調整して、公開保育日に合わせて学校関係者評価委員会を開催したり、公開保育のための準備資料を評価委員会資料に活用したりすることができる。

ただ、公開保育を基に実際の保育活動に意見を述べるのみの一般の参加者と異なり、学校関係者評価委員には、自己評価を踏まえた幼稚園全体の改善活動を評価する視点も求められることに留意して内容を検討する必要がある。

5. ②学校関係者評価委員会の取組事例

(1) 概要

①園名：青森県 千葉幼稚園（園長 千葉多香子）

②所在地：青森県八戸市田向間の田 39 - 3

③園児数：189人

④クラス数：8クラス

(満3歳組・1クラス／年少組・2クラス／年中組・3クラス／年長組・2クラス)

(2) 委員について

①委員の人数と立場

小学校校長1名、中学校校長1名、公民館館長1名、福祉施設管理者1名、学園理事・元PTA会長・卒園児1名、元PTA副会長1名、現PTA会長1名（計7名）

②委員の任期 2年

(3) 委員会実施内容について

【第1回 学校関係者評価委員会】

①日時 平成26年5月30日（金） 9時～12時

②次第

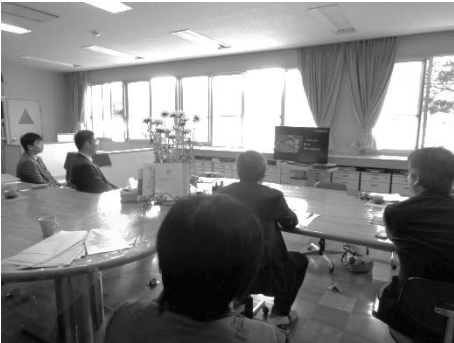
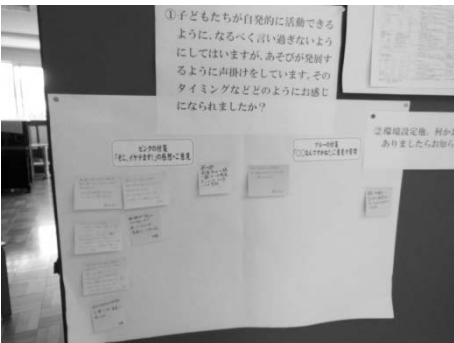
【進行】教頭

1. 開会
2. 園長挨拶
3. 委員紹介
4. 本日の日程について
5. 園の概要説明
6. 園内視察・保育見学
7. 意見交換
8. 次回の委員会について
9. 閉会

③配布資料

- | | |
|-----------------|------------------------------|
| ・幼稚園要覧 | ・平成25年度教員研修記録 |
| ・幼稚園教育マップ | ・研究のあゆみ
(創立から昨年度までの研修の取組) |
| ・教育課程（保護者向け） | ・学校校種別交流活動記録 |
| ・平成25年自己評価公表シート | |

④日程

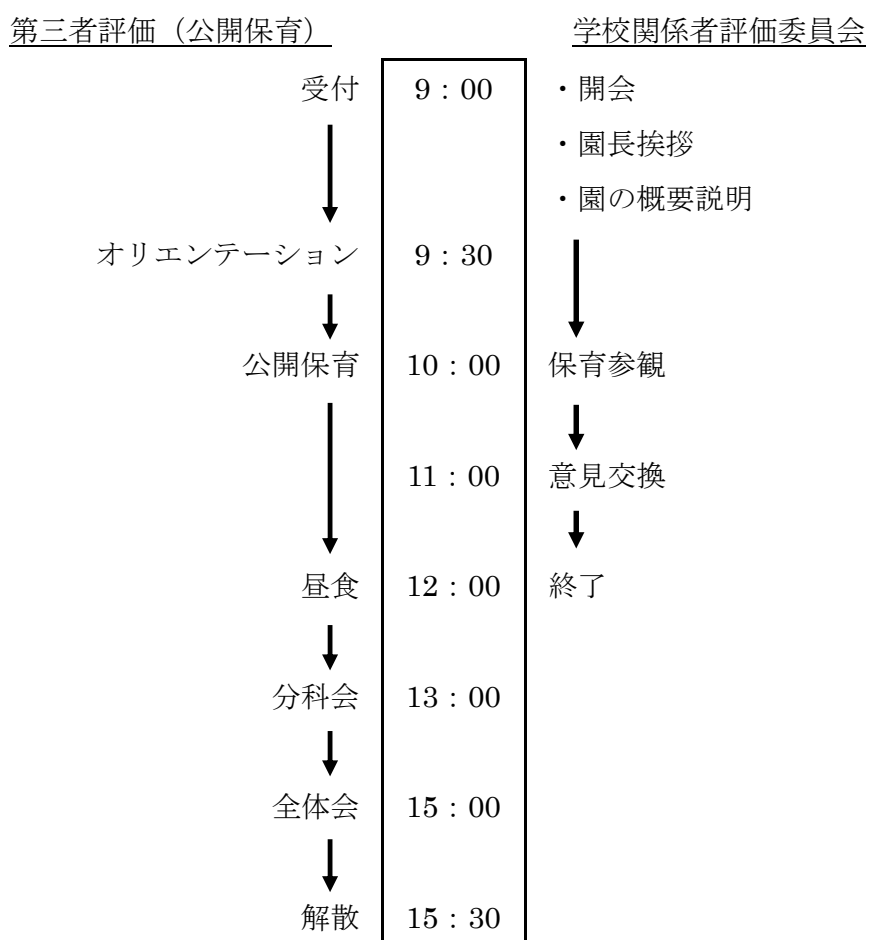
9 : 0 0	開会 園長挨拶 委員紹介 本日の日程について 園の概要説明 ①映像による紹介 ②資料による説明 ・千葉幼稚園の生活について ・研究のあゆみについて ・昨年度の自己評価について ・本日の保育について	 ▲園長挨拶  ▲映像を使つての園の概要説明
1 0 : 0 0	園内視察・保育見学 各クラスの活動に対し、また園環境についての問い掛けに対して感想等を付箋に書き貼っていく。	 ▲付箋に感想を書いて貼る
1 1 : 0 0	意見交換	 ▲意見交換
1 2 : 0 0	閉会	

※学校関係者評価委員に、保育見学について下記の点をお願いした。

★園内視察・保育見学について

- ・園内をご覧いただきながら、園の取組についてお配りした用紙に感想をご記入ください。11時からの意見交換の際の参考として使用します。
- ・園内各所に園側で事前に決めた参加者への問い掛けが掲示されていますので、よろしければその問いに対して付箋紙で感想をお聞かせください。
- ・ピンクの付箋紙にポジティブなご意見・ご感想を、ブルーの付箋紙には質問等ネガティブなご意見・ご感想をお書きください。

◇公開保育を活用した第三者評価学校関係者評価委員会の流れ



◇意見交換

環境について

- ・行事等で幼稚園に来る機会はあるけれども、初めてじっくり幼稚園を見た。環境の素晴らしさ、子供の目線に立って見ると、ワクワクする、触ってみたい物がそこにもここにもあった。
- ・一番の魅力は子供の成長のバランスを大事に考えているという点だ。
- ・砂場遊びも素晴らしいが、泥んこになって遊べるような場所があればよい。心の発揚する教育をしてほしい。
- ・子供の時間が流れている環境教育、工夫された園舎である。
- ・学年ごとの仕切りはあるが、子供の動線のつながりがあった。
- ・家庭では育てることが難しい教育がここにはあると感じる。この広い環境を大事にしてほしい。
- ・明るい雰囲気と開放的なスペースがよい。集中することが年長児に獲得できていると感じる。人間性を学ぶときに、個性を出せる環境になっていると感じる。
- ・壁に貼っている言葉を見て、その言葉について楽しそうに会話をしながら歩いていた子供たちがいた。今、この言葉の意味は理解できなくとも、子供たちが理解できる年齢になったときに、今していることが学びにつながるのだと感じた。

教師のかかわりについて

- ・特別支援が必要な子供に対して、子供の居場所・待っている時間がある。小学校にはないので、小学校での手立ての勉強になった。
- ・教師の声の小ささに驚いた。中学校であれば、声掛けは生徒に届くよう大きくなっていくが、小さい声だからこそ、園児は集中するのだろう。
- ・教師は子供の内面を見ながら声を掛けたり、同じ活動の中に一人一人の成長の差を見ながらかかわっていた。
- ・教師の声掛けにより、子供を落ち着かせている様子がわかった。
- ・教師の言葉掛け、指示というよりは、子供にそっと手を差し伸べる活動・配慮が見られた。

保育内容について

- ・自主性を尊重した教育をしている。
- ・保育に子供の人数は関係があるのか？

保護者とのかかわりについて・けがについて

- ・いろいろな動きができる遊具は、子供たちのいろいろな工夫が生まれる。冒険心が育たないと、子供の成長には良くない。反面、必ずけがもある。子供がけがをしても保護者の方の温かい支援・理解が必要だ。
- ・けがをした場合には、子供が家に帰る前に、学校から保護者へ知らせることが重要。小

学校でも、頭部のけがの場合はすぐ病院へ連れて行き、必要なら救急車を呼んでいる。

- ・ P T Aの活動をしてきて、P T A活動が園の良さだと感じているが、P T Aの活動をしたくない保護者もいる。園の良さであるがゆえに保護者は少し負担に感じているのではないか。
- ・ 保護者のP T A活動も、活動自体が学びであることを伝えたい。様々な活動は、社会参加へつながっていることを知ってほしい。

【第2回 学校関係者評価委員会】

①日時 平成27年3月4日（水） 10時～12時

②次第

【進行】教頭

1. 開会
2. 園長挨拶
3. 本日の日程について
4. 報告
 - (1) 本年度の自己評価について
 - ①教員自己評価
 - ②保護者アンケートより
 - (2) 昨年5月の公開保育後の園内研修の取組について
 - ①本年度の取組
 - ②次年度への課題
 - (3) その他
5. 保育見学
6. 意見交換 ※アンケート記入
7. 閉会

③配布資料

- ・ 平成26年度教員自己評価まとめ
- ・ 平成26年度保護者アンケートまとめ
- ・ 公開保育後の取組と課題について

④日程

10:00	開会 園長挨拶 本日の日程について 報告 (1) 本年度の自己評価について ①平成26年度教員自己評価 ②平成26年度保護者アンケート (2) 昨年5月の公開保育後の園内研修の取組について ①本年度の取組 ②次年度への課題	 ▲資料を基に、本年度自己評価についての報告
10:40	園内視察・保育見学 前回の公開にて参加者から意見をもらい、改善した点を説明しながら園内を巡る。	 ▲改善点について報告
11:00	意見交換	 ▲意見交換後のアンケート記入
12:00	閉会	

◇意見交換

園内研修について

- ・ 5月の公開保育に得た参加者からの意見や感想を、ここまでしっかりと仕分け、まとめ、課題等を明らかにしている点を評価したい。
- ・ 園内研修の内容をポスター化しており、誰にでもわかりやすく伝えることができている。

自己評価の内容から

- ・ 保護者からのアンケートを無記名にした場合と、記名式にした場合とでは取扱い方が異なってくる。我が校の場合は、記名式にして、質問に関しては直接書いた本人に答えている。
- ・ 我が社では、無記名式で利用者アンケートをしており、出てきた意見やそれに対する社の方針等を、冊子にして全員に配布し理解を求め、改善点を明確にしている。
- ・ 質の高い教育を行っており、そのことを誇りにして、是非これからも頑張ってもらいたい。応援したい。

保育内容について

- ・ 年少組での「おかいものごっこ」の場面では、単におもちゃでごっこ遊びをするのではなく、自分たちが作ったものを売っていた。また年中組では、皆で描いた絵を壁に貼り、それを全員で見合い、よく描けているところや、本人が工夫したことについて教師が話している場面であった。幼稚園の教育は、絵を描いたらそこで終わりではなく、その遊びが一つで完結しているのでもなく、全てつながっていることを実感した。
- ・ 年長組の姿を見て、子供たちが大変よく育っていること、そのことにより、園の教育の確かさを感じた。

環境について

- ・ いつ訪れても大変明るく、開放的で、親しみやすい空気が流れている点を評価したい。高齢者施設の管理者として、高齢者も園を訪れることを楽しみにしている。
- ・ 子供たちの姿から、子供と接する楽しさを実感した。

公開保育後の園内研修の取組について 保育の質の向上を目指して 平成 26 年度園内研修記録

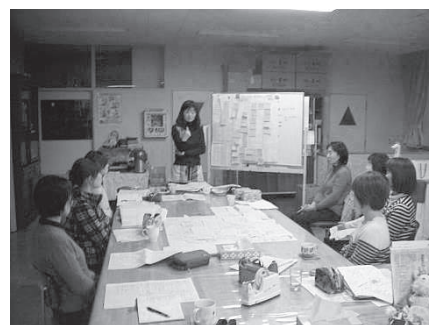


1. 公開保育後の振り返り

(1) 私たちの保育に対する「いいね！」と「課題・質問」を教員全体で共通理解を図る。

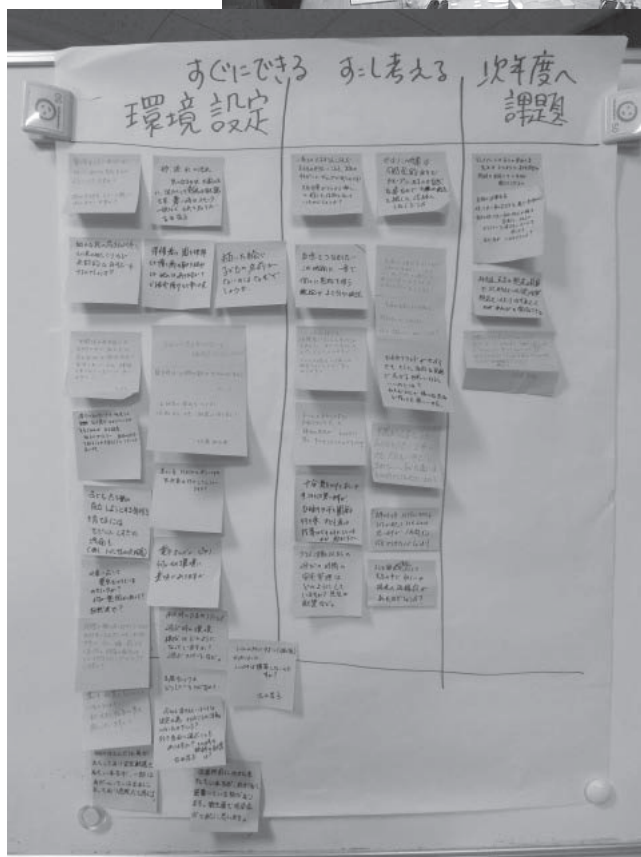
公開保育で付箋に記入した参加者からの意見を、「いいね」の部分と「課題・質問」の部分に分けて一覧にまとめ、それぞれのクラスについての意見を、互いに見合う。参加者からの質問には、教師同士で答えを出し合い、改めて共通理解を図る。

☆「いいね！」というポジティブな意見や感想をたくさんいただき、教職員全員で自分たちの保育への誇りと同時に、素直に嬉しさを感じたひと時。



(2) 参加者からの意見を分類する。

- A「良さ」
- B「今後も継続していく点」
- C「今すぐ改善できる課題」
- D「今後の私たちの課題」



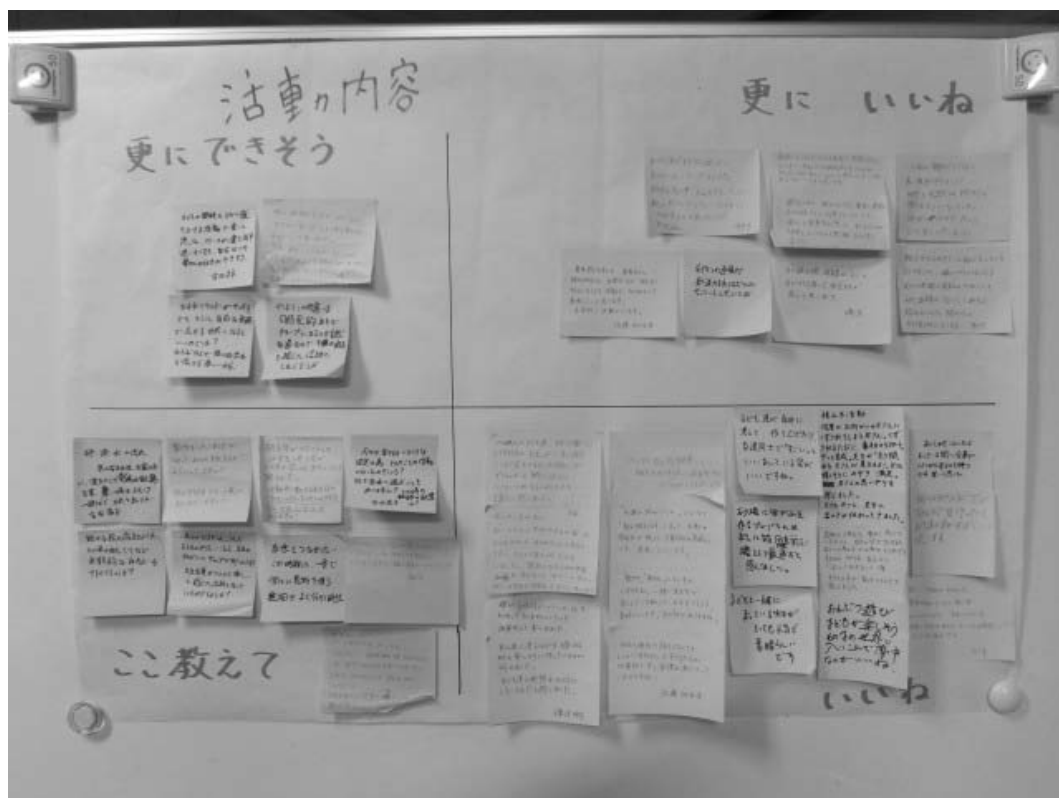
(3) 本園のA「良さ」を視点別に分類する。

- ①「当日の活動内容・子供の姿」
- ②「言葉掛け・教師のかかわり」
- ③「環境設定」

■ 参加した教員が出した本園の「良さ」

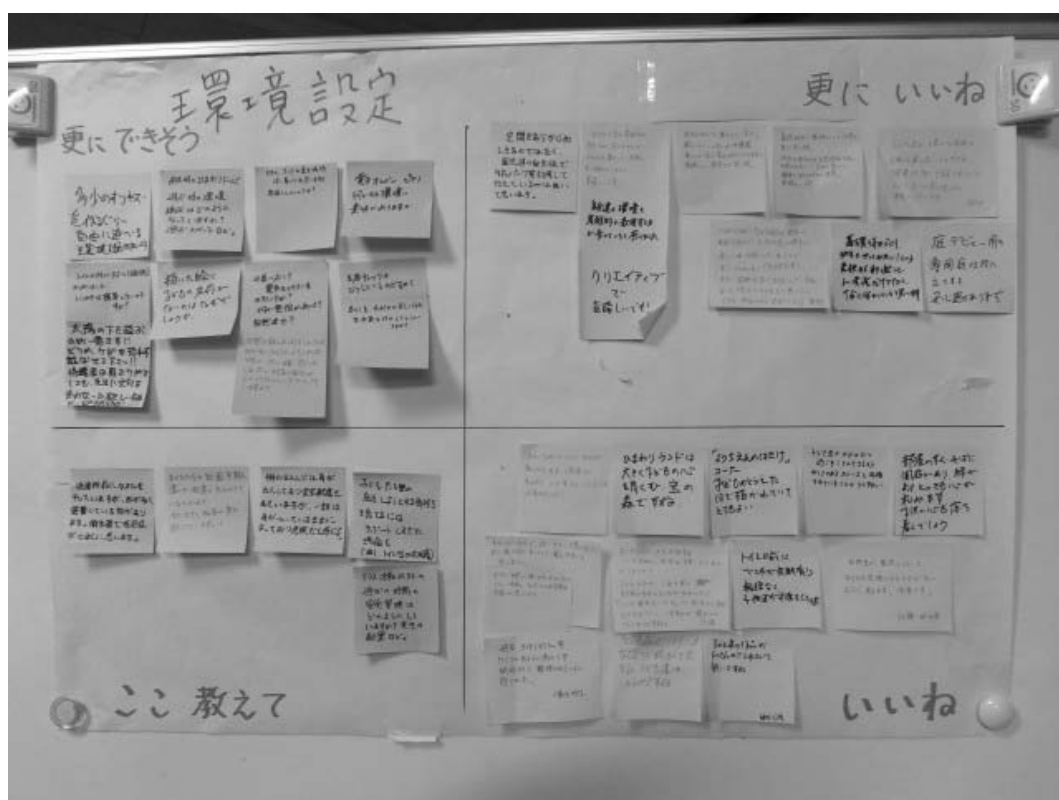
<活動内容・子供の姿について>

- ・ 人の話を聞こうとする態度が養われている。
- ・ 集中力に感心した。また、子供の表情が明るく伸び伸びしている。
- ・ 出来上がったものに、友達同士が「すごい」と言い合っている姿がよい。
- ・ 次に何をするのか、興味を持ち集中して落ち着いて取り組んでおり、すばらしい。
- ・ 子供同士のアイデアを伝え合う姿は、大切な活動となっていて素敵。
- ・ 自由に思い思いのものを作ることができ楽しそう。クリエイティブですばらしい。
- ・ いろいろな性格の子供がいてよい。様々な特長の子供と接することで、社会性を身に付けていけると思う。
- ・ 砂場に皆で山を作るというプログラムは、正に「協同」を学ぶ場として最高だと感じた。



<環境設定について>

- ・子供たちの作品がたくさん飾られていて楽しい。
- ・風や緑を身近に感じることができ、子供の心が落ち着く。
- ・時間がゆったり流れているようで、安心感がある。
- ・オープンハウスで保育環境が全部見えるようになっていて、皆とかわかりコミュニケーションが持てる環境がよい。
- ・隅々まで掃除が行き届いていて、清潔で気持ちよい。
- ・伸び伸びと過ごすことができる、ゆとりのあるスペースが羨ましい。
- ・市販のおもちゃより、手作りのおもちゃが多く、創造力を育てるポイントになっていて、とてもよい。
- ・窓の近くに物がなくて、開放的。
- ・庭デビュー用の、3歳児専用の庭が役に立ち、安心感がある。
- ・空間をあらかじめ仕切るのではなく、子供たちが自主性で牛乳パックなどを利用して行えるのがよい。
- ・トイレの前のベンチで待ったり、じゅうたんに名前が付いていたりするなど、子供たちが落ち着いて待てる場所があってよい。



<言葉掛け・教師等のかかわりについて>

- ・幼児一人一人の動きをよく見ているので、子供たちが不安を感じず、活動に取り組むことができていた。
- ・「遊びが終わり」と言うのではなく、「駅が閉まります」と言って終わりにするような言葉掛けがすばらしい。
- ・子供全員が揃うまで手遊びをするなど、変な間がないのがすごい。
- ・教師の優しい声が、子供たちを、次の活動に取り組むための心の準備をさせている。
- ・支援が必要な子供を教師の目の前に座らせたり、周囲にしっかりした子供を配置したことはよい。
- ・臨機応変に、援助を変える力がすごい。
- ・教師との信頼関係がしっかりできているように感じた。
- ・子供が楽しむ、教師が楽しむ、とても大事だと思う。教師の自然な援助がよい。



2. 私たちの園の課題を整理する。



A「すぐに改善できること」

B「今後考えなければならない課題」

＜すぐに改善できること＞

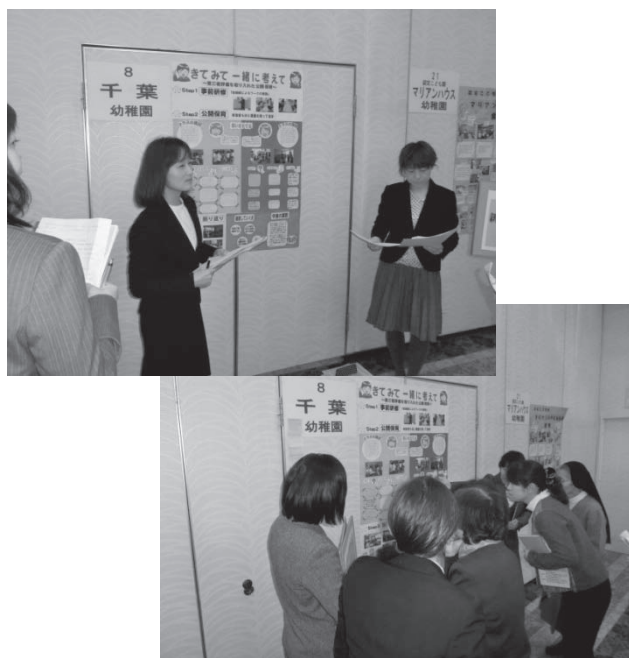
- ・タオル・コップの置き場所について。タオル同士の感染や乾燥の仕方。
- ・豊かな自然の中での、安全対策・虫対策。
- ・電気の付け時・消し時の判断。
- ・大型製作物の保管の仕方・始末の仕方。

＜今後考えなければならない課題＞

- ・教師の想定範囲でよく遊んでいたが、想定を越えたり、外れていったりする遊びの面白さのある保育。
- ⇒子供にとっての遊びとは何か。遊びを深める工夫について考える。
- ・支援が必要な子供の行動によって、活動が中断されてしまったときの再スタートをさせる工夫。

3. 公開保育の実践と振り返りについてのポスター発表の実践

(平成 27 年 1 月 13 日開催『八戸地区私立幼稚園教員研修大会』にて)





4. 今回の公開保育後の取組を通して感じたこと

- ・自分だけでは気付かなかった考えや見方を発見することができ、自分自身の考えなどを見つめなおすきっかけとなった。
- ・保育の中で感じた気付きや悩みを、じっくり皆で話合うことができ、積極的な気持ちで保育に臨むことができた。
- ・保育者同士、互いに高め合うことができた。
- ・いつも同じようになっていた遊びが、活性化され、子供たちにとっても自分にとっても、楽しさが増したように思う。
- ・当日の遊びを限定しながらも、過程を楽しみながら、改善しながら取り組み遊び込んでいく中で、子供たちが夢中になって遊ぶ姿が見られるようになった。
- ・子供たちの思いや考えに深く目が向き、教師側の思いやねらいが、具体的に考えられた。
- ・個々に応じた援助をしつつ、人的・物的環境をどう構成していくか、教師間での話合いの機会を今後も増やしていきたい。

5. 課題改善に向けて

(1) ポイントを絞っての教育課程の見直し

- ・子供たちにとっての「充実」とは何か。教師の思いやねらいと子供たちの求めているものが、本当にかみ合っているか。そういったことに焦点を置いて、長い見通しの中で毎日・毎週・毎月話合いを進めていくことができるよう、教育課程の中で重点的に見直していく項目に印を付け、日々話し合いながら実践し見直していく。見直す項目を毎年変えて、教育課程の全体的な見直しにもつなげていきたい。

(2) 教師間で理解するための可視化・保護者にも保育が見えるような可視化

- ・自分のクラス・学年以外の、遊びや保育・環境構成などについて、共通理解をしながら進めていくためには、話し合うだけでなく、目に見えて分かなければならない。そこで、写真を利用し、吹き出しを考えることで、その子供や状況はどのような変化があったのか、どのようなことを感じ、考えているのか、教師としてどのような意図があったのかなど、記録として残していく。そうすることでそれぞれの保育が見え、皆で共有して意見を出し合い、互いに高めていけるだろう。また、同じように写真を利用することで、保護者にも保育の様子を具体的に伝え、「保育者が今どういうねらいを持って保育をしているか」、「子供たちのどういう部分が成長してきているか」などということに気付いたり、他学年の発達の見通しを持つことへもつなげていったりしていきたい。

(3) 教材研究の進め方

- ・教材研究の時間を確保するため、朝の時間を利用していく。子供たちの登園時に、保育室の環境が充実していれば、子供たちは自然に楽しく安心して遊びに夢中になり、集中して遊びも発展していく。前日からの継続を大事にすることはもちろん、そこに、教師が子供たちに経験させたいことや、発達・興味に応じた設定・教材の工夫をしていけるよう、「朝」を充実にあてていきたい。そうすることで、子供たちとも気持ちに余裕を持って保育の中で遊びを楽しんでいくことができ、自分の想定を超える面白さも、どんどん見えてくるだろう。また、自分のクラス・学年の教材だけでなく、他の学年を見合う日を決めるなど、相互理解・発展にもつなげていきたい。



5. ③公開保育に参加した学校関係者評価委員のアンケート

(1) アンケートの方法

①対象者：千葉幼稚園の学校関係者評価委員 7名

新光明池幼稚園の学校関係者評価委員 4名

計 11 名

< 年齢 >

20代	30代	40代	50代	60代～
1名	3名	3名	3名	1名

< 性別 >

男性	女性
7名	4名

< 園との関係 >

在園児保護者	卒園児保護者	地域関係	養成校関係
3名	2名	4名	2名

②アンケート実施時期：公開保育参加後

③アンケートの内容

【公開保育アンケート】

このアンケートは、公開保育や保育後の話し合いを終えての感想を幼稚園の関係者（保護者、地域、養成校等）の方々にお訊ねするものです。記述式で具体的にお書きください。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

1. あなた自身のことについてお答え下さい。

①年齢（ 歳）

②（ 女性 ・ 男性 ）

③園とのご関係をお教え下さい。

保護者 ・ 地域関係者 ・ 養成校 ・ その他（ ）

2. 公開保育や保育後の話し合いを終えての感想をお聞きます。

以下の1～4の各項目について、あてはまるものを一つだけ選んで番号に○印をお付け下さい。また、各項目の内容について具体的にお書きください。

1 全くあてはまらない 2 あてはまらない 3 どちらともいえない 4 あてはまる 5 非常にあてはまる

ア. 公開保育を見学して改めて園の良さを感じることができた。	1	2	3	4	5
良さを感じた方は、どのようなことが園の良さと感じることができたかお書きください。					
イ. 公開保育を見学して園の課題が理解できた。	1	2	3	4	5
重点的に取り組むべきと思われた課題があればお書きください。					
ウ. 公開保育に参加して園に対して改めて協力していきたいと感じた。	1	2	3	4	5
どのような点で協力していきたいと感じたかお書きください。					
エ. 公開保育を行うことは園の教育の質の向上に有効であると感じた。	1	2	3	4	5
3. その他ご感想（実感した効果、難しさ）をお聞かせ下さい。					

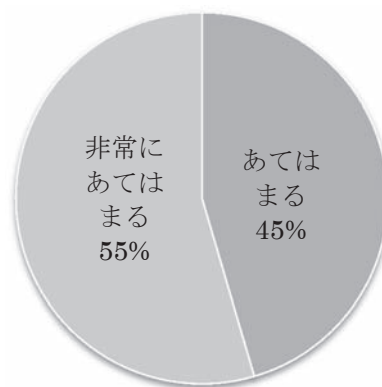
(2) アンケートの結果

ア. 公開保育を見学して改めて園の良さを感じることができた。

	全体	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	非常にあてはまる
回答数	11	0	0	0	5	6
%	100	0%	0%	0%	45%	55%

○感じられた園の良さ

- ・ より良い保育を求めて常に変革していこうとする姿勢が素晴らしい
- ・ 子供の主体性に寄り添い、保育を進めていこうとする方向性に共感した
- ・ 自然を取り入れた遊びが良い
- ・ 季節を感じられるものが置いてあったり、飾られていたりして良かった。どんぐりの種類などもわかりやすく説明書きがされていた
- ・ 異年齢の子供たちがかわりあって遊んでいるところが良い
- ・ 教室の中がとても明るく楽しい空間だった
- ・ 遊びのコーナーが子供たちが遊びやすいように工夫されている
- ・ 子供を取り巻く環境全体が丁寧に設計されている
- ・ 園庭や教室等の設備が整っている
- ・ 望ましい環境を維持していることが素晴らしい
- ・ 子供を中心に活動が行われている
- ・ 質の高い活動が行われている
- ・ 園の方針と実践、そして子供の姿が一致しており素晴らしい
- ・ 年齢に応じた教育がされている
- ・ 子供たちの輝く笑顔に触れ、未来を築く希望を感じた
- ・ 公開保育を見ての感想の取り方が工夫されていた

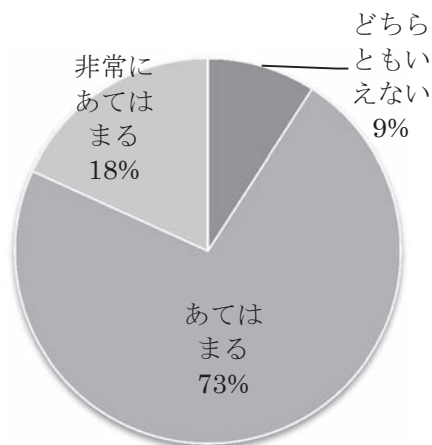


イ. 公開保育を見学して園の課題が理解できた。

	全体	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	非常にあてはまる
回答数	11	0	0	1	8	2
比率	100%	0%	0%	9%	73%	18%

○重点的に取り組むべきと思われた課題

- ・これまでと同じように時代の変化に合わせた改善
- ・これからの保育の中心に据えようとしている「コーナー保育」の深まりに期待したい。これまでの一斉型の保育より、子供理解や環境構成において、細やかさや丁寧さが求められるので、教師の専門性の向上が不可欠である
- ・設定保育であっても、子供たちの知的好奇心などを活かした、子供主体の保育実践を進めていくことができると考える
- ・このすばらしい幼稚園を継続させるために、少子化時代にも安定した経営ができるような国や県の助成の見直しが必要

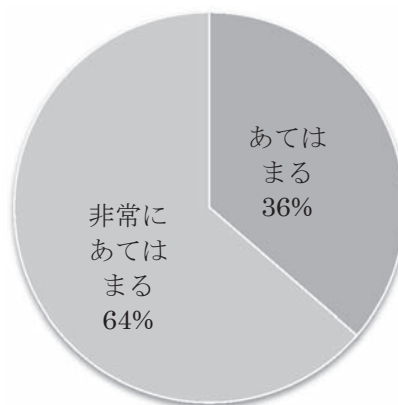


ウ. 公開保育に参加して園に対して改めて協力していきたいと感じた。

	全体	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	非常にあてはまる
回答数	11	0	0	0	4	7
%	100%	0%	0%	0%	36%	64%

○どのような点で協力していきたいと感じたか

- ・更なる教育プログラムの充実のため、地域全体で幼児教育を支えていかなければと感じた
- ・幼保小の連携を更に進めたい
- ・特別な支援を必要とする子供への理解と対応についての情報交換
- ・外部の声を園に伝え、一致協力して更なる発展に貢献したい
- ・地域で共に運営する事業所として、できることは協力して行っていきたい
- ・入園を検討している保護者にこの園を勧めたい
- ・養成校として教材開発や情報提供、卒業して園で働いている教師たちのフォローアップに関する協力をしたい
- ・遊びに使う素材の提供

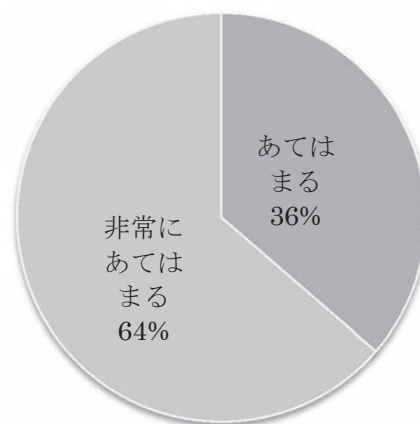


エ. 公開保育を行うことは園の教育の質の向上に有効であると感じた。

	全体	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	非常にあてはまる
回答数	11	0	0	0	4	7
%	100%	0%	0%	0%	36%	64%

○どのような点でそう感じられたか

- ・評価を客観的にテキスト化することで、目標設定がしやすくなる
- ・園の方針と実際の活動への理解が深まり、方向性に沿った意見をもらうことができる
- ・園の方針とは別な視点で、広く意見を聞く機会が確保される
- ・外部の視点からいろいろな意見が寄せられるので、公開園にとって新たな発見や気づきがある。また、参観者にも新たな発見や気づきがあり、それぞれの持ち場で生かすことができる
- ・生の保育を教師と参観者が共有できることは意義深い
- ・日常の実践が支持されることで更に自信を持って教育に取り組むことができる
- ・意見を聞き、今後の改善につなげられる
- ・公開することで、教職員だけではない意見を聞くことができる
- ・成果と課題が具体的に確認できる
- ・公開することで教師が初心に帰ったり、意識が高まったりする



オ. その他のご意見（実感した効果、難しさ）

- ・少子化の問題等大変なこともあるかと思うが、子供たちのためにこれまでと同様、すばらしい環境整備、人材育成を基礎にした幼児教育が行われることを期待している
- ・描いた絵や作ったおもちゃをその活動だけで終わらせず、次の活動に生かしていることがよい
- ・指導（活動）の計画性、継続性が感じられた
- ・公開するということは、いろいろなことを考えて本当に勇気があることであると思うが、本園は積極的に取り組んでおりその姿勢がすばらしい
- ・寄せられた意見を整理し、園運営の改善に活かしていることも、その効果として好感が持てる
- ・課題等について、しっかりと分析して処遇に活用できていることはとてもよい
- ・すばらしい方針と実践、そしてその具現化が、しっかりと子供の姿で伝えられているこ

とに感動した。説明責任を果たす手立てとして、最も大切だと思う。是非、頑張ってください。心から応援します

- ・ 子供に触れる楽しさを感じた
- ・ 100% 満足のいく教育というのは難しいと感じた
- ・ 研修のための保育ではなく、普段の保育とつながっていることを改めて感じた
- ・ 今後この公開保育が他園にも普及していったらいいと思うが、公開保育をする上での教師の負担感がどのようなものだったのか知りたいと思った
- ・ 教師としての子供達への思いや、子供の成長を常に考えて保育していることが良く分かった

(3) アンケートの分析

- ・ 「公開保育を見学して改めて園の良さを感じることができた」という項目については、「非常にあてはまる」が全体の 55%、「あてはまる」が 45% で、両者を合わせる 100% となり、学校関係者評価委員が公開保育を見学することは、園の良さを感じるために大変有効性であることがわかる。また、公開保育を見学することで、設備、環境の良さだけでなく、子供中心の活動、質の高い活動、発達に応じた教育と、具体的な教育活動や子供の姿からその園の良さを見付け出すことができている。さらに、より良い保育を求めて常に変革していこうとする園の姿勢に対しても評価している。
- ・ 「公開保育を見学して園の課題が理解できた」という項目については、「非常にあてはまる」が全体の 18%、「あてはまる」が 73% で、全体の 91% がその有効性を感じている。「園の良さを感じることができた」という項目ほど高いポイントではないが、園の課題を理解するという点においても、有効性があると思われる。ただ、「重点的に取り組むべきと思われた課題」についての記述は少なく、養成校の教員を除いて、幼稚園教育の専門家としての立場ではない委員が、公開保育を見学しただけで、その園の重点的に取り組むべき課題を見付け出すことは難しいということもわかった。
- ・ 「公開保育に参加して園に対して改めて協力していきたいと感じた」という項目については、「非常にあてはまる」が全体の 64%、「あてはまる」が 36% で、「園の良さを感じることができた」と同様、大変有効性があるといえる。「どのような点で協力していきたいか」については、在園児保護者、卒園児保護者、地域関係者とそれぞれの立場によってその回答は違っているが、どの委員も公開保育に参加したことで今まで以上に園に協力していきたいと感じている。幼稚園が教育運営を進めていく上では、様々な方面からの協力や支援が必要であり、委員がそれぞれの立場で園に協力できることを意識することは、大きな意味があると思われる。
- ・ 「公開保育を行うことは園の教育の質の向上に有効であると感じた」という項目については、「非常にあてはまる」が全体の 64%、「あてはまる」が 36% と、非常に高いポイントになっている。「どのような点でそう感じられるか」の記述では、いろいろな視点から広く

意見を聞くことができるといった内容が多かった。また、学校関係者評価委員が、公開保育の参加を通して、園の方針や教育実践の理解が深まったり、成果や課題が具体的に確認できたりすることで、教育の質向上につながる意見を述べることができるといった記述もあった。養成校の教員は、教材開発や情報提供等、研究者として園に協力したいという意見も見られた。

- ・その他の意見として、幼稚園の方針や実践の成果が、子供の姿の中に現れていることを評価している記述があった。これは園から書面によって報告されるだけでは伝わりにくいものであり、正に実際の保育を見ることによって評価できることであると思われる。また、園が積極的に自園の保育を公開しようとするその姿勢そのものや、公開保育時のことだけでなく、寄せられた意見を園がどう整理し、園運営の改善にどう活かしているかといったことについても評価しようという視点が生まれてきている。

これらのことから、学校関係者評価委員が公開保育に参加することは、評価の質を高めるといった点で有効性があると考えられる。

6. 公開保育コーディネーター（評価者）による公開保育以降に保育の質はどのように深まっていたか（概要）

【武蔵野東第一・第二幼稚園の取組】

平成 25 年度公開保育後から平成 26 年度を終えるまで

<平成 25 年度>

6 月 27 日 公開保育

（事前に自園の課題、目指すことなどを田の字法で明らかにした資料①「公開保育前・田の字法」資料添付）

6 月 28 日 園内研

提出された付箋を園内で再整理するための方法を検討する

さらに		
いいね		
課題だね		
別に		

付箋をカテゴリー分けしたもの

上記の分類が良いということになり、学年で統一して付箋を整理してみたところ、当日の分科会中には、把握しきれなかった情報がみえた。

7 月 27 日 公開保育コーディネーター（評価者：岡先生）より公開保育後の振り返り気付いたことをテーマごとに発表し、岡先生からのまとめの話の内容

- ・公開保育の振り返り
- ・片付けと年齢発達と子供の見通し
- ・子供を見る目
- ・仕事の効率化（保護者への見える化、日案、カリキュラム、研修）

9 月 各個人で7月の研修の内容を具体化する。

- ・個人で具体化したものを基に、学年会にて「分かったこと」「今後取り組めること」を共有
- ・取り組むことの優先順位を学年ごとに付ける。
（②「公開保育後まとめレポート」学年別 資料添付）

9月21日 園長に学年会でまとめた内容を伝え、園全体として、これから取り組んでいくことについての職員会を設ける。

10月 子供を見る目を養い、「事実の記述＋虫の眼（吹き出し）＋教師の願い、思い」の記録が習慣的に行えるように、記録用紙を作り、各自書き込む。

（③「平成25年度10月研修記入シート」資料添付）

・月末に実際の記録を基に園内研を実施

（④「平成25年度10月記録の研修の手順」資料添付）

・園内研修を終えて、教職員それぞれの感想を付箋に書き出し、それをカテゴリー分けした

（⑤「平成25年10月研修の感想」資料添付）

3月 平成25年度の取組と、平成26年度に向けての取組についてポスターにまとめた。

（⑥「平成25年度から平成26年度の取組スタートポスター」資料添付）

・ポスター1枚目：平成25年度公開保育後に「保護者と子供の育ちを共有するために」取り組んだこと

・ポスター2枚目：平成26年度に「保護者と子供の育ちを共有するため」の取組の仕組み作り

<平成26年度>

4月 平成26年度の教育重点を「子供の育ちの物語を保護者と共有する」として、最初の保護者会で、ドキュメントシート・ポートフォリオシートという呼び名とその意味合いを保護者に伝える。

・ポートフォリオシートについては、年間3枚を配布し、年度末にまとめて渡すこととした。

・ドキュメントシートは、クラス前に掲示し、ファイルに綴ることとした。

・どちらのシートも、担任のみならず、フリーの教職員も記入する。

・フリーの教職員のシートは掲示版などに貼り、保護者に見てもらえる環境を用意する。

6月 個人懇談にてポートフォリオシート1枚目を配布する。

この取組について、保護者から感想をもらう

（⑦Pシート感想学年別資料添付）

2月 平成26年度の取組をポスターにまとめる

（⑧平成26年度の取組まとめポスター資料添付）

資料①「公開保育前・田の字法」

ワークショップのまとめ

(1) 自分の園の良いところ、誇れるところのまとめ

○学年別に見た際の考察

共通点

- ・「混合教育」、「行事」、「教職員」というキーワードは各学年から出ている。

相違点

- ・年長では「一貫教育」が挙げられていた。内部進学についての取組を最も行っている学年である。

○カテゴリー分けの詳細（付箋数）

1. 教職員（計44、年少16、年中12、年長16）

- ・チームワークがよい
- ・熱心
- ・きめ細やかな対応ができる
- ・年齢層の厚さ
- ・幅広い人材

2. 混合教育（計32、年少9、年中12、年長11）

- ・いろいろな個性の子供と出会える
- ・健常児と自閉児の自然な交流

3. 行事（計18、年少7、年中5、年長6）

- ・発表会で本物の舞台を経験できる
- ・自分の力を発揮したり、様々なことを経験したりできる
- ・行事のプロセスを大事にし、子供たちが達成感を得られる保育をしている

4. 個性を大切にした保育（計9、年少5、年中4）

- ・様々な個性の子供が安定して過ごせる場
- ・個々をよく見て、一人一人に対応する保育

5. 心を育てる（計8、年少6、年長2）

6. 専科保育（計4、年中2、年長2）

7. その他（各2）

①一貫教育

②預かり保育（異年齢交流、保護者サポート）

③安定して過ごせる環境

(2) まだできていない・難しい・取り組めていないことのまとめ

○学年別に見た際の考察

共通点

- ・「自己スキルアップ」「保育記録」という視点は各学年から出ている。

相違点

- ・「保育」について、年少・年中では「自主性を引き出す保育」、年長では「自発性を育む保育」と発達に応じた視点がでてきた。
- ・「環境」について、年少・年中は「遊びこめる環境」というキーワードから「室内遊び」の環境についての意見が多く、年長は「魅力ある環境」というキーワードから「園庭」の環境についての意見が多かった。年少・年中はごっこ遊びがより深まるような環境を用意したいという思いがあり、年長はより活動範囲が広がって自ら遊びが発展できるような魅力ある園庭環境に目が向いているように思われる。
- ・「保護者」について、保育内容の伝え方という意見は年少・年中から出ていた。子供の年齢が低いためと思われる。

○カテゴリー分けの詳細（付箋数）

1. 保育に関する課題（計44、年少11、年中22、年長11）

①教員自身について（自己スキルアップ）

「遊びを発展させる声掛け」、「保育の引き出し・保育技術の向上」、「見守る保育（手を掛け過ぎない）」、「障害児理解」、「子供を見る視点」、「子供理解、成長段階の把握」、「保育でこうしたいができない（子供の主体性を引き出したいが…）」、「情報伝達」、「時間の使い方」、「設定保育とそれ以外のバランス」など

②子供に対して

「主体性を引き出す保育」、「自発性を育む保育」

2. 環境について（計21、年少6、年中10、年長5）

①遊び込める環境

②魅力ある環境

③「自然」、「ごっこ遊び」、「異年齢との遊び」、「自閉児の自由遊びの幅を広げる環境」、「発展性のある遊び」

3. 保育記録（計5、年少2、年中2、年長1）

「日々の保育記録」、「子供を見る視点」

4. 保護者（計4、年少1、年中3）

「保護者への保育内容の伝え方」

（3）不安なこと・障壁のまとめ

○学年別に見た際の考察

共通点

- ・障壁として「時間」、「保護者理解」、「バランスの難しさ」という視点は各学年から出ている。

相違点

- ・年長では「バランスの難しさ」についての視点多かった。
「行事の質と自由な遊びの時間の確保」
「小学校に向けてのことと今の子供らしさ」

「専科保育と自由な遊びの時間」など。

・「時間」という視点には「教育時間」と「事務処理・準備時間」の2つの視点があった。

▶事務処理や保育準備の時間の不足が障壁になっているという意見は各学年共通だった。

▶教育時間の不足については、圧倒的に年長からの意見が多かった。年長になると、専科教育時間の増加やイベントの増加、やりたいことの増加が原因と思われる。

・「見通しが持てない」という視点については年少チームからの意見が多かった。年少での保育の改善が年中・年長になり、子供の成長につながっているのかが見えずに不安に思う気持ちと、年少担当教員が育ちを意識しながら保育していることが読み取れる。「自分のやったことがうまくいったかわからない」、「今までの取組を変えたことが正しいのか分からない」、「子供の成長の見通しが持てない」など。

○カテゴリー分けの詳細（付箋数）

1. 時間（計35、年少11、年中11、年長13）

①事務処理・保育準備時間 「情報収集の時間がない」、「技術や知識を向上させる時間」、「時間不足」

②教育時間 「行事の充実と自由に遊ぶ時間」、「集団と個々の時間」

③大きなスパン「行事と行事の間隔が短い」

2. バランス（計25、年少11、年中2、年長12）

①自園の良さと新しいこと・現在と過去

②専科と遊びの時間

③行事と遊びの時間

3. 見通しが持てない（計22、年少12、年中7、年長3）

（変化していくこと、今までの取組を変えていくことに対して）

①子供の成長…「学級間に差ができてしまっていていいのか」、「経験不足にならないのか」

②環境…「園庭改修してどうなるのか」

③自園の一貫性・私学の独自性が保たれるのか不安

④個人的に…「自分の保育に幅がない」、「今のことに迷いが多い」、「大切にすべきことなど方向性が見えない」

4. 保護者（計21、年少2、年中11、年長8）

①保護者の理解…「今変えていることは保護者が求めていることなのか、理解が得られるのか」

②保護者とのコミュニケーション…「機会が少ない」、「保護者同士のトラブルの入り方」

③多様な保護者

5. 個人のこと（計15、年少8、年中5、年長2）

6. スペースのこと・1クラスの人数（計6、年中4、年長2）

④将来・未来に向けてのまとめ

○学年別に見た際の考察

大きく目立つ学年間の差は見られないが、子供の育ちに合わせた目指す姿が見えてきた。キーワードは年少「生活力」、年中「夢中・自主性」、年長「子供の自治のある生活」

共通点

- ・今までの園の取組を土台にして、新しい取組に挑戦するなど、園として、保育のバランスを取っていききたい。行事と遊びがうまくつながるような保育を目指したい。どの学年も今後の工夫を求めている。
- ・時間や場所のゆとりを求めるのは共通（ゆとり度合いは学年差があると思われる）。
- ・園庭 自然にかかわる、動物、畑、実、虫、臭いの環境を充実したいのは共通。
- ・園庭環境の中でもそれぞれの学年の発想力のある遊びへ広げていききたいのは共通。
- ・保護者の自立・任せられる（同じ思い）で育てられる関係を築きたいと思っているのは共通。
- ・保護者の理解が得られるような保育の啓蒙・見える保育、保護者教育などは各学年共通。

相違点

- ・「新しいアイデアや若い教員のパワーを生かせる保育」という意見が年少・年中では出てきた。年長では子供に委ねて保育を進めたいという思いからか、教員の個性を活かすという視点は出ていない。

○カテゴリー分けの詳細

1. 環境のこと（計27、年少10、年中11、年長6）

2. 子供のこと（計25、年少12、年中4、年長9）

子供の育ちに沿って、年少は生活力あるたくましい子供、年中は夢中・自主性のある子供、年長は子供の自治や発想力を活かした子供に育てて欲しいという過程が見えた。

3. 教員のこと（計13、年少7、年中3、年長3）

年少はクラスの個性や教師の個性を尊重したいものの、クラス間の差が出ているのではないかという戸惑いが出てきた。また、子供の育ちに沿って、年中では教師と子供、子供同士が共に学び合え個々の理解を深めていくような保育を求めている。年長になると子供の考えや活動が多様化することでよりスムーズなチーム保育の重要性や教師同士の幅広い技術の研修や互いの保育の理解を深めていきたいという広がりが見えた。

4. 保護者 保護者との連携（計12、年少4、年中3、年長5）

5. 混合教育（計12、年少2、年中5、年長5）

混合教育の土台は崩したくない。自閉に限らない受入をしたい。

実践を他園に発信、広報していきたい。

6. その他

- ・一貫教育（4）／上級校との連携や進学（年長ではこれには触れていない）
- ・地域（4）／第二園舎の環境から地域との共存（第一では触れていない）
- ・給食（2）／厨房や栄養士のいる幼稚園。給食だけでなくストーブの活用。野菜栽培などの保育への広がり。

◇園内研修を終えて—これから取り組めること・変えること

【年少】

○写真の活用

- ・学級でしていること、盛り上がっている遊びの写真を保育室に掲示
→学級の中での情報共有・他の学級への情報発信
- ・日案に写真を入れる
→毎日やりたいけれど、データが重くなる、どうしても時間がかかってしまう、といった声もある。
- ・職員間で写真の共有
→旬な姿を切り取って、写真を共有することで他の学級（教師）が、今、どのようなことを大切に保育をしているのかを、皆で共有できる。
→どこどの時間で行えるか。学年の仕事ルーティーンのどこに組み込むのがスムーズか。
→写真を共有することで効率化を図るのであれば、そのことによって削れる、これまでやっていたことはないか。

○環境

- ・子供の遊びマップの作成
→遊びが具体化され、遊んでいないスペースが分かったり課題が見えたりしてくるのではないか。
- ・作品を置く場所
→時期や育ちに合った場所をそれぞれの保育室で設定することの大切さを学んだ。その時期、その遊びに合わせた場所を考えていく（片付けにも共通する）。

○年少としてのねらいの明確化

- ・“片付ける”ことについて、どのような子供の姿を捉え、何をねらいにしていけるのか曖昧であるので、月案を立てるときに、片付けの場面を抜き出して、子供の姿や遊びの様子を話し合い、共通したねらいを持てるとよい。
- ・カリキュラムを見直す機会を学期末ではなく、日常の中で見直していくことで、より実際の保育と近い教育課程になるのではないか。

○教師同士の情報交換・共有

- ・交換したり共有したりした情報を、自分の保育に取り入れてみようとしたときに試行錯誤があり、アドバイスがほしい、と思う場面が、それぞれにある。それをそれぞれが学年会の話題として発信したり、学年の教師でやり取りしたりができるようになるとうい。

【年中】

○「片付け」の捉え方

- ・「ねらい」や「育ち」によって子供への働き掛けや援助が変わる。
- ・片付けによって遊びに向かう気持ちをそいではいけないが、メッセージを伝えることはできる。
- ・遊びや気持ちの継続を大切に作って作ったものを片付けずに残すときがある。
- ・片付けることでリセットし、また新しいものを作ろうとする力や再現しようとする力を育てる。

○教師の「ねらい」が、子供のやりたいことになるような環境作りや援助を考えていく。

- ・記録としての写真の活用
 - 写真から保育を見る。子供の育ちを知る。
 - 写真の使い方、選び方。

○安心感のある、見通しの持てる生活から（次はこれをしたらよいかな、これをしたい、という）手伝いの意識が生まれる。

○子供が課題（困り感など）を感じるから、（それを解決しようと）自主的に動くようになる。

○仕事を重ねていくということ。

☆学んだことから、取り組めると思うこと

- ・「片付け」を学年ごとに追う活動は、来年度の研究部の活動として取り組むことはどうか。
- ・「写真＋吹き出し」＝「保育の見える化」を日案やクラスだより、成長記録などに重ねていけるようにする。
- ・カリキュラムを写真で考えることに関しては、3年計画の重点の取り組みはどうか。

【年長】

テーマA『環境』…保育室以外の場所の活用

- ・年中と相談をする必要がある →じっくり取り組む
- ・コーナー保育
- ・季節



だけど、

- ・各保育室の空間の使い方は、日々の学年会で話し合い、取り組んでいる。

テーマB『見える化』

- ・情報量が多い、位置が高い、文字ではない見える化
 - ⇒学年で相談してもよいし、個人で考えて取り組んでみてもよい

でも、

- ・興味や意欲を大切にしている。→書いたものが間違っていたら手を加えている。

見本になるような表を掲示している。

- ・写真の掲示→とった写真を子供たちと切り貼りしたり飾り付けたりするなど掲示を一緒に行うことで経験を振り返るきっかけにできたらよいと思う。

近いところで取り組みそうなのは、

- ・園祭りの大物作品の説明の表記の仕方をどのようにしていくのがよいかなどを考えていく。→例：子供のイラストや写真で代用してみるなど

テーマC『生活の見通し』

- ・スケジュールの確認方法

今年度スケジュールを掲示する取組をしている。

子供たちの様子を一年見て続けるのか、続けないのか。

→続けるとして・・・どのような形にするのか。

例：1日単位か。1週間単位か

例：文字か。写真か。

1年間取り組んだことで来年どうするか、学年で検討が必要。

でも、スケジュールを掲示することで。

- ・目に見えてわかるので、振り返りをするときには、子供たちにわかりやすい。

○すぐに取り組めること（数字は優先順位）

- ①見える化、情報量、掲示の貼る位置、文字以外の表記の手段

【情報量】

学年で同じ内容を共有する際には、各保育室ではなく、共有の場に表示をする。

【位置】

限られた掲示場所の中でできる限り子供の目線に合わせて掲示している。

【文字以外の見える化の取り組み】

行事の振り返りなどは文字だけでなく、写真をメインに絵などでも子供が分かるように表示する。

【字が読めない子供への配慮】

文字を描くことを要求せず、絵でも文字でもよい。

- ②素材のバリエーション

○継続 ※1年かけて事例を取る。

スケジュール

保育室以外の場所の有効活用

- ・子供の育ちのねらい
- ・スケジュールの取組
- ・文字の扱い

資料③「平成 25 年度 10 月研修記入シート」

保護者向け（ ） クラスだより（ ） 保育者研修（ ） 日案（ ）

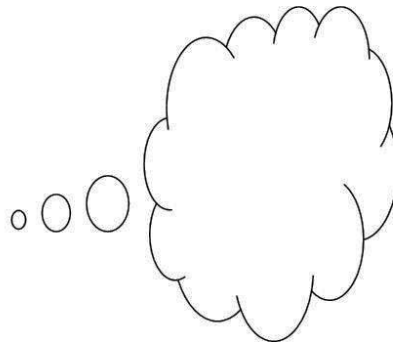
*いずれかに○をつけてから記入をしてください。

（今回は保護者向けに書いて下さい。枠のサイズ調整はしていただいて構いません。）

学年 歳児 月 組 氏名

記入者

（写真）



（事実の記述と幼児理解の根拠） *文字12ポイント

（教師の願いや思い、子どもの育ちの記述） *文字12ポイント

資料④「平成25年度 10月記録の研修の手順」

◇ポートフォリオシート研修

1. 園長より趣旨説明（今回のワークのねらいと手順について）

2. ワーク（3人1グループ）

①3人で紙面を読みまわす

②良さを付箋に書き出し、口頭で伝え合う。どのような観点があるかということに、少し触れる。

③テーブルにシートと付箋を残して、フリータイム。

・好きなテーブルに着席し、目の前のシートに目を通す。

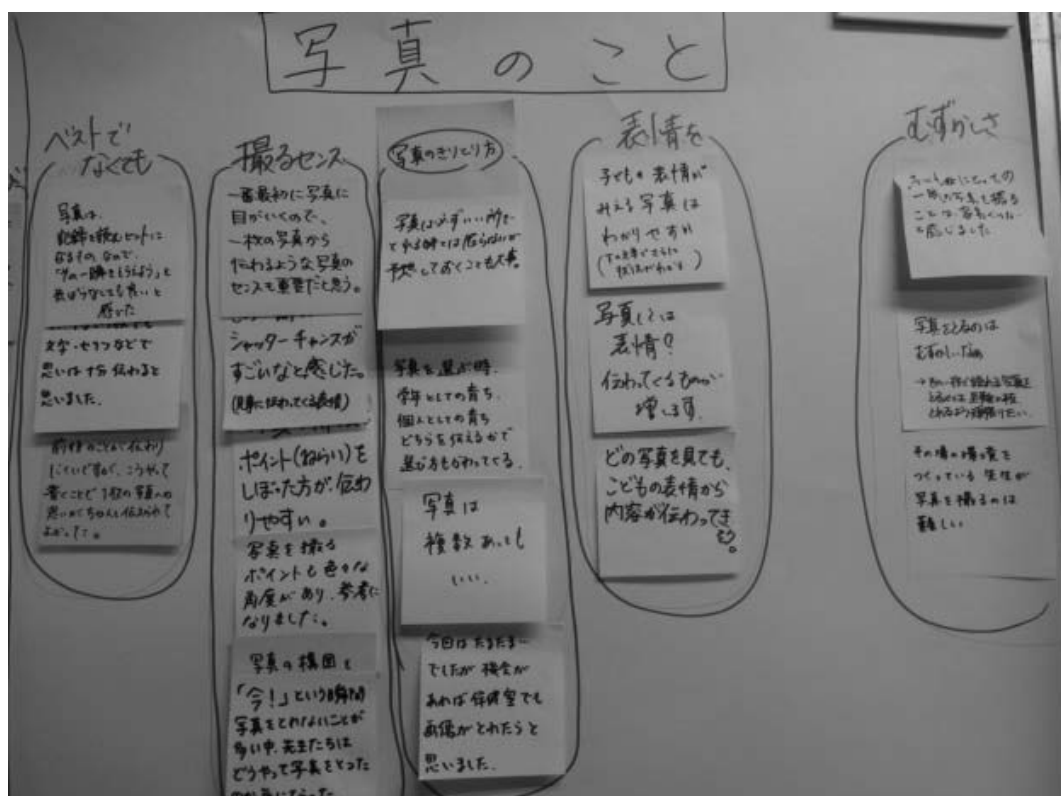
・必ず付箋し、次のテーブルかシートへ。

・10分程でいろいろな場を回る。

④最後に自分のテーブルに戻り、今回、いろいろな人のシートに触れ、自分のシートに付箋をもらい、勉強になったこと、気付いたことなどを3つ付箋に書き、掲示板に貼り終了する。

*付箋をカテゴリー別に掲示板に残せるように、カテゴリーを予測し、模造紙に区割りしておく。

資料⑤「平成25年 10月研修の感想」



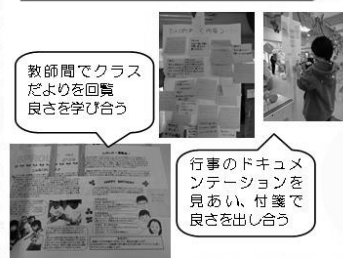
子どもの育ちの物語を 保護者と共有するために

武蔵野東第一・第二幼稚園

研究のねらい

- ①教師の子どもを見る目を養い、保育の営みを教師間で共有し質の向上を図る
- ②子どもの学びや育ちの物語を保護者と共有し、連携を深める
- ③保護者と子どもの育ちを共有するための取組み一つ一つをまとめて、仕事を重ねる

①質を向上するための取組み



保護者感想を得る
教師間で取組みを見あう

保育者間で共有
話し合い、取組みを評価

向上するための取組み

可視化する
育ちを保護者と共有する

園内研修



②保護者と共有するための取組み（H25年度）

保護者に子どもの学びや育ちをよりよく理解してもらうために、可視化の取組み一つ一つの工夫をした。

<クラスだより>

用紙をフリースペースにして、教師が伝えたい内容を自由にレイアウト



<HP>

その日の話題だけでなく、教師が伝えたいと思う内容を掲載



『出来事』
+
『教師の気づき・思い
保育の視点』
を掲載して、保護者に子どものエピソードをみる観点を示す。

<掲示物>



様子の掲示

- ・1学期交流・園まつり製作
- ・2学期交流
- ・発表会までの取組み
- ・3学期交流

保護者会などの来園の機会に保護者に取組みの感想を付箋でもらった



<各クラスの工夫>

保護者が来園する機会にクラスの様子を写真で紹介



教師の観点でまとめたタイトルや文章を添える

写真に吹き出しをつけて補足し、より分かりやすく



◇ポートフォリオシートの感想

※保護者の卒直な意見等を反映させるため、原文を尊重することとしている。

○年少

年少・保護者A 「幼稚園でプリンを作った」の言葉の中にこの様な物語があったのかと写真と先生のコメントを見て、成長にうれしくなりました。家で話してくれたときに、「上手にできたのかな」で終わらせてしまったのを残念に思い、今よりもっともっとたくさんお話をしようと思いました。一緒に過ごす時間の中では、今回の様な顔を見ることはできてもカメラで撮ったりはなかなかできないので、今回のシートを見て「こういう顔するよね」と、夫婦でうれしく話しました。

年少・保護者B 今回は嬉しいシートをどうもありがとうございました。園で親のいないところでどのように過ごしているのかを垣間見ることができ、とても興味深く読ませていただきました。特に父親は私以上に園生活を知る機会が少ないので、見入っておりました。園でこのような機会を設けて頂き、有り難いとともに嬉しく思います。マンモス園と言うことで、入園前は我が子が埋もれてしまわないか心配していましたが、シートを見ると先生が一人一人をきちんと見てくれているのが伝わり安心します。お忙しい中、度々フォロー電話も入れて下さり、有り難いです。娘は幼稚園と担任の先生が大好きですので、これからも宜しく願います。

年少・保護者C 今回個人面談でいただいた個人シートの中の我が子は、粘土で作った作品を先生に見せている姿が写されていきました。その一枚を見て「入園まではいつも「みて！」の隣には私（母親）が居たのが、今は先生なんだな～」と。4月に幼稚園に入園し、親の手元を離れていった我が子を感じ、改めて写真の我が子の表情を見ると、落ち着いて普段と変わらない表情に、（幼稚園を自分の居場所と感じ、安心して毎日を過ごせているのだな）と確認することができました。個人シートの作成は年に3枚。とのお話で、親としては「もっと知りたい！」というのが本音ですが、3枚だとしても、やはり先生からの細かなお話よりも、実際に目で見て子供の表情を確認できるというのは有難いと感じます。これからも宜しく願い致します

年少・保護者D 年中組と年少組で子供たちがお世話になっています。学級役員をさせていただきましたので、役員会でシート導入の経緯を園長先生からお聞きしていました。とてもよいお話だと思いました。上の子は自閉児ですので、告知のときはどうしようか～、と漠然と考えながら日々を過ごしていました。ハンディキャップという点で、共通しておりますし、こういう取組に感動し、目頭が熱くなっておりました。シートを書く前に皆さんに是非伝えておき

たいと思い、保護者会で先生が話される前に、学級の方々にお伝えしてしまいました。自閉の上の子供に見せたところ、自分の写真が載っている不思議な紙でしばらく眺めておりました。健常の下の子供はニンマリ恥ずかしそうに照れていました。先生のコメントや母のコメントに、完全理解はまだ難しいようですが、今は二人の子供は写真を眺めているだけで充分のようでした。大きくなって、コメントも理解して懐かしく思い出される日が来るのを楽しみにしています。全ての子供に、大切な一枚になるように思いました。園長の今日もよい日はいつも楽しく読ませていただいておりますが、在園2年目で初めて投稿させていただきました。今後とも、素敵なお話、素敵なお写真をよろしくお願いします。

年少・保護者E いつも、大変お世話になっております。今回、先生からの温かいメッセージと普段の娘の写真付きのシートをいただきまして有り難うございました。娘は内弁慶で、何事にも慎重なところがあり、幼稚園ではどのように過ごしているのだろう、楽しく過ごしているのだろうか心配しておりました。シートには、日常の様子がありのままに記されていて、ニコッと笑ういつもの娘が写っておりました。また、先生のメッセージからは娘の行動一つ一つをよく見てくださり、子供の心情を細かに観察して頂いていることがわかりました。娘が一步踏み出すその様子が、本当によくわかりましたし、私たち親も簡単に手を差し出すのではなく、先生のように子供の力を信じて関わっていかなくてはいけないと感じました。先生の丁寧な御指導に大変感謝いたしております。年度末に1冊にまとめて頂けるのを見るのが今から楽しみです、年少時のよい思い出として大切にしたいと思います。

年少・保護者F 子供の様子が写真から想像しやすく、またエピソードが〇〇ちゃんらしくて、先生がたくさんいる子供たちを個々に見守っていることがよくわかりました！子供同士のやり取りの充実、経験の積み重ねが幼稚園入園の願いです。

年少・保護者G 幼稚園での様子がわかり、新鮮な一面も見られた気がしてとても良かったです。一生懸命作ったり遊んでいたりする姿にとっても成長を感じることができました。

年少・保護者H 幼稚園に到着し、朝の支度をしていた息子。そこに、運動会で踊ったハイホーの音楽が聞こえてきて、支度が終わっていないのに思わず踊り出してしまう・・・でも準備もしたいんだ！！という心の葛藤がよく伝わってくるシートでした。入園してから僅か2ヶ月ですが、準備も体操も、自分の意志で楽しくやっている様子がわかり、とても成長を感じました。また、担任の先生が、園児のささいな行動の中にある心の動きまでしっかりと理解し、温かく見守ってくださっていることを感じ、とても嬉しく思いました。

年少・保護者I お世話になっております。保育の様子の共有化、見える化とはどのようなものかと思っていましたが、保育室に掲示されるクラス新聞や懇談シートなど、写真と文章により具体的に普段の様子がわかるようになり、とても興味深く拝見させて頂きました。特

に一人一人に渡される懇談シートは唯一無二の娘のエピソードであり、きっと宝物になるだろうと思います。ただ、個人としては有り難い試みであり、すばらしいものだと思うのですが、学級全体で考えたときに先生への負担が膨大ではないかと危惧する次第です。個人に対してとっておきのエピソードを真剣に探そうとすればするほど、集団保育時の学級全体への視線がおろそかになるのではないかと思います。ましてエピソードにちなんだ写真を撮るにはかなり一人にフォーカスしてファインダーを覗かなくてはなりません。その時、その他29人に対しての意識はかなり薄いと思います。そういった瞬間瞬間を学級全員分重ねていったらと思うと、これが幼稚園で求められる集団保育の望ましい形なのか疑問を感じざるを得ません。木を見て森を見ずとでもいうのでしょうか、先生もプロですから、個人を見つつ全体を見るのもたやすいことなのかもしれません。でも写真のような形に残すというのは先生といえども、かなりの負担とプレッシャーではないでしょうか…。ビデオやカメラというのは親が自分の子供一人を追うのさえ、かなりの集中力を要しますし、カメラ越しに覗いてもその場の生の雰囲気を感じることではできなくなります。だからこそ、撮影禁止の保育参観があるのだと思いますし、その考え方にとても共感しています。しかし、今回の取組はそういう考え方に相反する形とも言えますし、集団保育自体がおろそかになるのではと心配なりません。必要以上に個人にフォーカスしていただくよりは七夕音楽会の参観等を復活させていただきたいと思います。非常に長文、散文で失礼致します。また内容的にも失礼にあたりましたらお詫びいたします。誹謗中傷をしたいわけではなく、今回の件に関する率直な感想です。先にも述べましたが、個人的には非常に嬉しいシートであり、一生の宝物にしたいと思います。

年少・保護者J 写真付きの先生からのコメント、そして親自身が記入できる面談シートというコンセプトにとっても感動しています。私は記録を付けることをやろう、と思いながら結局行動に移せずにいたので、このように形に残る物をいただけることに大変感謝しています。折角なのでこのシート以外にもその時の好きな本、おもちゃなどを別に記録してアルバムに残してあげたいな、なんて思いました。夫も幼稚園の様子を見て、なんか新鮮だねといっていました。幼稚園の様子を伝えると他人に流されてないという点では将来職人系?!なんて話をしました。これからもこういった素敵な思い出に残るものを継続していただきたいと思っています。

【年少・自閉症児クラス】

年少・保護者K 懇談の時に頂いたシートに、我が家では子供が砂場で遊んでいる写真が添付されていました。砂場で遊ぶといっても、山を作っている訳でもなく、型抜きで遊んでいる訳でもなく、単に砂を握ってはサラサラと砂が手からこぼれて行く様子を楽しんでいる写真でした。コメントによると、先生は、砂で遊ぶ我が子に声を掛けてくださり、言葉はなくても表情などでコミュニケーションを取ってくださったようです。今まで「砂場に連れて行っても、お山を作るわけでもなく、型抜きで遊ぶわけでもなく、つまらない。。。」とってい

た私の考えを一転させてくださいました。大人が面白いだろうと思うことを無理にやらせようとするのではなく、今子供が楽しんでいることに寄り添って一緒に楽しむ、ということが非常に大切であると改めて感じさせられました。沢山の写真の中からあえてこの写真を選んでくださったことをとても嬉しく思います。運動会や授業参観などの写真とは違った、本当の日常を捉えた写真であり、とても貴重な宝物になると思います。本当にありがとうございました。

年少・保護者L 先日いただいた個人懇談シートの写真と文章から、普段なかなか目にすることができない幼稚園での楽しそうな様子が手に取るように分かり、夫婦で笑いながら拝見させていただきました。家にいる時にも、いろいろな車両の写真が載っている本がお気に入り、本棚から引っ張り出してきては、「ショベルカー」と言いながら楽しそうに本にかじり付いていることがよくあります。また、外出した際にも、工事用車両（正確にはショベルカーではない場合もあります）を見付けると、嬉しそうに（得意気に）「ショベルカー」と口ずさんで、ニコニコと微笑みます。以前よりも表情豊かになり、また、周りの人や物に強い関心を示すようになってきたため、「ショベルカー」や大好きな食べ物などを介して自発言語が増え、コミュニケーションの世界が広がるきっかけになればいいなと願っています。

年少・保護者M すばらしい取組だと思います。大変ありがたいです。しかし先生方の労力が気になります。全員の写真を撮るだけで大変なことだと思います。その日は普段通りの保育ができるのでしょうか。入園してすぐに、治療クラスの先生の残業が多いから個別指導を減らすとの話がありました。このシート作成のためにまた残業が増えたのではないのでしょうか。そうすると更に個別指導が減るのでしょうか。まだ一度も個別指導を受けていないのでどちらが価値があるのかもわかりません。息子は担任の先生が大好きなのであまり残業が増えて体調を崩ささないよう無理のない頻度でお願いしたいです。将来有効に使えるように大事に取っておきます。

○年中

年中・保護者A 以前の懇談と比べるとシートがあったおかげで、より具体的な幼稚園での様子を知ることができたと思います。子供から聞く話だけだと正直話がよく分からないこともありますが、写真と先生から具体的な状況の説明もして頂いたことで、とてもそのときの状況がよくわかりました。子供にシートに書いてあった出来事を「こんなことがあったんだって？すごいね」と言うと「うん、そうなんだよ」とは言ったものの本人にとってはそこまで話したい出来事でなかったのか、そこまで大した出来事じゃなかったのかよく分かりませんが、残念ながら多くは語ってくれませんでした。しかし、親にしてみれば普段慎重で新しいことに挑戦することが苦手な息子がちょっと怖い新しい遊びに挑戦したという話は聞いてとてもうれしい話だったので、シートでお話を聞いてとても有り難く感じました。

年中・保護者B 子供は日々成長していきますが、毎日の生活に追われ、なかなか小さな成長を記しておく機会がございませんので、幼稚園に入り少しずつ出できるようになる成長の過程が形として残っていくことは、大変有り難いことだと思いました。また、懇談でのお話だけよりも、より、先生がどのように我が子を見てくださっているのかがわかり、とてもうれしかったです。

年中・保護者C 先生にいただいたシートは、とても楽しそうに遊ぶ姿が写っていて、しかも友達と一緒に、私達、両親にとってはとてもうれしいものでした。インドネシアで7か月の時から過ごしてきた影響か少しクールで外人みたいなところもあり、幼稚園に馴染めるかと心配していました。でも、そのような心配を掻き消してくれる笑顔の写真でした。ありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

年中・保護者D 個人懇談でいただいたシート、正直驚きました！！普段私が見ている息子は、幼稚園の姿とは逆で常々心配をしていました。しかし、幼稚園という社会の中で自分なりにこれじゃいけない！と気づき、成長をしている姿を見られて嬉しいの一言です。家庭で過ごしているときにはなかなか私が気が付けなかった責任感、自信、思いやりの姿も感じられてとても良いきっかけになりました。ありがとうございました。一人一人の成長を捉えることはとても大変だとは思いますが、これからも楽しみにしています。今後ともよろしくお願いいたします。

年中・保護者E いつもお世話になっております。暑い中も引き続き子供たちを見守ってくださりありがとうございます。懇談会で頂いたシートで、主人や祖父母にも息子の様子を伝えることができました。写真もあり、本人の表情や動きが分かってとても見応えがありました。日頃、どのようなことをしているのかを教えて頂けて大変嬉しいです、有り難いのですが、先生方のデスクワークが増えてご負担になっていないか心配です。日々のかかわりの中で、個々のトピックスや写真に気持ちや時間が取られてしまい、先生と遊ぶ時間やお話する時間がなかなか取れなくなるとさみしく思う子供もいるかな…などと勝手に想像してしまいました。厚かましくも個人的な印象をお伝えして…すいません。『保育の見える化』、先生のご負担でなく、日中保育とのバランスがうまく取れているのでしたら大歓迎・大感激です。これからコメントに何を書こうか、息子の写真を眺めながら考えてみます。

年中・保護者F 子供は日々成長していきますが、毎日の生活に追われ、なかなか小さな成長を記しておく機会がございませんので、幼稚園に入り少しずつできるようになる成長の過程が形として残っていくのは、大変有り難いことだと思いました。また、懇談でのお話だけよりも、より、先生がどのように我が子を見てくださっているのかがわかり、とてもうれしかったです。

【年中・自閉症児クラス】

年中・保護者G 1. メッセージシートについて／幼稚園の中での様子は分からないことも多いので、このような写真付きのシートと先生からのメッセージをいただくと、とっても安心します。とにかく楽しく過ごせていることだけで本当に感激ですが、課題や困ったことなどがあれば併せて教えていただければ家庭での取組に活かしたいと思います。2. 夫婦で話したこと／こういうシートを節目節目でいただくことができると、幼少時代の出来事を後から振り返ることができてよいことだと話しています。是非今後も継続していただければうれしいです。

年中・保護者H 息子の園生活の様子が写真があることによって、とてもリアルに分かりました。そして、それがまた成長の記録として残るので、親にとっても子供にとっても大事な思い出になると思いました。たまたまですが、パラバルーンが大の苦手だった息子が、まさかニコニコしながらパラバルーンに入っている写真だったので、本当に驚きました！幼稚園がパラバルーンをやっていることも知りませんでしたし、このシートがなければ、知ることがなかったかもしれません。とても有り難い情報共有の一つであると思いました。又、私は子供のポートフォリオ作成をしており、成長の過程を写真で記録し、生まれた時の状況から、好きなこと苦手なこと、通った病院、療育施設、助けてもらっている人々、特徴や特性についてなどを一冊のファイルにまとめてあります。それは、息子を周りの人に紹介するときに、言葉では伝えにくいことを、ポートフォリオを見せることで、自閉症という子供を少し理解して頂けると思っております。うちの息子は幼稚園での出来事を話せないで、シートを見せて私から「楽しそうだね！またやりたいね！良かったね～」と声を掛けました。視覚優位の息子には、写真があることでその時の状況を思い出すきっかけになります。一方的ではありますが、幼稚園での出来事を親子で共有できるすばらしいシートだと思いました。

年中・保護者I 言葉が無い子供にとって園での生活の様子は先生方から聞くしか術が無かったので、個人評価ツールに写真や担任の先生からの言葉は新しい発見でもあり、子供の園での様子がわかって非常に良かったです。

年中・保護者J 写真付きのメッセージシート、とても良い試みですね。父親は幼稚園での子供の様子がなかなか分からないのですが、いただいた写真とメッセージから、日々の小さなドラマや頑張りがよく伝わってきました。家族の宝物になると思います。ありがとうございます。

年中・保護者K 自分が子供の立場であつたら、後にこういった記録が残されていることをうれしく感じるだろうと思います。子供の制作物や絵画は親が感心したり懐かしく思ったりできる一方で、子供自身はピンとこないことも多いので。また写真が使われていることでイメージが湧き、子供宛てのメッセージが作成しやすいと感じました。

年中・保護者L 子供の運動会の練習の様子を書いていただきました。うまくいかないことへのいらいや、不安をやる気に変えていただき前向きに取り組んだことがよくわかりました。シートを見た娘は「この写真がほしい！！」と言っておりました。行事を通して成長したことがこのシートをみてわかり、主人ともども嬉しく思っています。
ありがとうございました。

○年長

年長・保護者A バス通園だと、一年間で一度の面談の中で、なかなか様子を知ることができないので、シートはとても参考になりました。帰ってから、子供がシートの写真を見ながら話してくれて、夫婦で成長を感じられました。特に、写真がある点は、数年後に見返した時になど、すぐにイメージでき、とても良いと思いました。
是非、継続していただきたいと思います。

年長・保護者B いつもお世話になりありがとうございます。今までの個人懇談と違い、シートに子供へのメッセージと写真を添えて頂いたことで、園での様子がより分かり易く捉えられました。娘の長所だと思う所を先生にもメッセージに添えて頂きうれしかったです。保護者からのメッセージ欄もあり、いつもバタバタとしてなかなか子供のことをじっくり考える時間はありませんでしたが、子供の今を見つめるよい機会を頂きました。

年長・保護者C 園内での自然な様子がうかがえて、とてもうれしかったです。カメラマンにカメラを向けられた時より自然な表情で、可愛かったです。一人一人を撮影するのは大変だっただろうな〜〜とは思いましたが^^; 家庭では末っ子わがまま放題なのに、それとは逆の顔で頑張ってるんだな〜と知ることもできて、またまた可愛くなってしまいました。

年長・保護者D 面談でのシートについての感想としては、今までより我が子の様子がよくわかってうれしく思いました。先生のお手間を考えると学級全員分用意するのは大変でしょうに、コメントまで加えて頂けてありがとうございました。
年少の晴は虫に触れないと決め付けていましたが、ダンゴムシを掴まんで観察している姿にびっくりしました！目からウロコが落ちました。主人は単身赴任中で子供と離れて暮らしているのですが、幼稚園での写真に感動し、メッセージを書いていました。記録として残るので、子供が成人した後にまた夫婦で一緒に見れたら素敵だなあとと思います！

年長・保護者E バス停のお友達と別れると、息子が開口一番に「今日ねーカブトムシが土の中から出てきたんだよ！飛んでるのもいたんだよ！」と興奮気味に話してくれました。昨年我が家でも飼ったのですが、羽音がどうも…今年はメダカで勘弁してもらいました。幼稚園でしか見られないカブトムシ。毎日食い入るように見ていると思います。ありがとうございました！

【年長・自閉症児クラス】

年長・保護者F シートを見て、子供の園で見せる顔（優しい表情でした）の一端がかいまみられ、心とみしました。写真があることで今までの個人面談よりも園での息子の様子がくみ取れました。家族からのコメント欄についてですが、記入するときは、園への提出ということを見ると、正直身構えてしまいました。また、コメントという大きなくくりよりは、もう少し絞りこんだ内容ごとに欄があったほうが分かりやすかったかもしれません。（園宛のメッセージを書くのか、将来の息子宛に書くのかなど）また、家庭での最近成長を感じたエピソードなどを書く欄があると、将来このシートを家族で見た時に更に思い出話に花が咲くのではないかと思います。（家族のコメント欄に記入すればいいだけの話かもしれませんが）先生方の御負担は増えてしまうかもしれませんが、卒園後の支援にもつながるとても有り難いことだと感謝しております。

年長・保護者G ポートフォリオシートについて、いつもは個人懇談で先生に子供の様子を聞かせていただいています。シートに写真があることでその時の一瞬の様子がより伝わって来ました。Mの場合は着替えの後の制服の畳み方を説明してある紙を見ているシーンでした。それを見て自分で考えて行動する様子が先生からメッセージに書いてあり、その二つによって、そう言えば、家庭で母が洗濯物を畳んでいる時に「Mくんも」と言ってお手伝いしてくれることがありました。母が教えていなかったことも幼稚園で学んだことによってつながっているんだなあと思えて感じたものでした。先日の保護者会で園長先生が「このポートフォリオシートがこれから先、子供たちの自信になってくれたら」とお話された言葉、実感しました。まだ主人とはきちんと話をしていませんが、私はそう遠くない将来、子供たちに障害のことを話そうと思っています。

それは一人一人考え方は違うと思いますが、どうして何かが違うんだろう？どうして自分はこうなんだろう？と覚えることがあるかもしれないときに、本当の自分を知ること自分らしい未来になるのではと考えています。あなたはこうやって成長していったんだよ、自分は自分でいいんだよという自信を持って大人になって欲しいです。何だか保護研の感想になってしまっていますが…。お世辞ではなく、このように子供たちの成長を考えてくださる幼稚園はないと思います。〇〇幼稚園に入園することができて本当に親子幸せです。ステキなシートを作ってくださいありがとうございます。節目、節目に見返したいシートです。

年長・保護者H 苦手なバランスボールも、大好きな音楽を聴きながら、挑戦している写真でした。先生のコメントにあった通り、楽しみを見付けながら頑張って取り組むことで、できる力を身に付けていければと、私自身も勉強になります。写真を見たお姉ちゃんのコメントは、笑いながら「Yちゃんすごいじゃんー（^_^）音楽好きだもんねー♪」でした。我が家のアイドル？Yちゃんを、一緒に育ててくださいありがとうございます！

年長・保護者I シートの内容は、正しく息子（A君）がお友達の名前を初めて呼んだ時の

内容でした。直接登園なので、実はこのエピソードは、事前に先生からうかがっていました。お迎えに行ったとき、先生が飛び出して来て、「A君が！ハル～って呼びました！ハル～おいで～って、頭を引っ張りました！！初めて！！」とまるで我がことの様に喜んで教えてくださいました。私にとっては、本当に待ち望んでいた瞬間で、涙が出るほどうれしかったのですが、先生が、私と同じようにすごく喜んでくださったのが、本当に本当にうれしかったです。息子のことを、諦めずに期待をしてくださっていたんだなあと、改めて実感できました。親の私でも、一筋縄ではいかない毎日に諦めてしまいそうになるのですが、先生をはじめ、諸先生方の熱意に、何とか支えられて息子の成長を信じられています。

今回、このシートを頂いたおかげで、ずっと時間が経った後でも、きっと息子がお友達の名前を呼んだ日の先生の顔と、うれしかった気持ちを思い出せると思います。シートを頂いた日、主人にも「この子が名前を呼んだハルちゃんだよ～！」と写真を見せて「同じ3月生まれだからかな～？」とか「気が合うのかしら？」とか、いろいろ、楽しい話は尽きませんでした！また、むらさき運動会では、ハルちゃんの御両親に「息子がハルちゃんを好きみたいなんです！」と御挨拶をしたら、とても喜んでくださいました。このシートは、今もうれしいですが、きっとずっと将来にたくさんの喜びをくれると思います。追われるような毎日の中でひょっとしたら、将来、忘れてしまったかも知れない素敵な思い出をありがとうございました。

年長・保護者J 普段保育の合間にお邪魔して見学させていただくことはありますが、なかなか子供たちの成長、格闘の瞬間には遭遇することはできないので、とても有り難いものだと思います。このシートを拝見して、家庭での息子とは違う一面を見ることもできるのではと、とても楽しみにしております。作成に当たられる先生方は、とても大変な労力だろうと御察すると同時に、感謝致します。今はまだ感想など話すことができない息子ですが、いつか冊子になったポートフォリオを息子と見ながら、語り合える日を夢見ています。

年長・保護者K いつも丁寧な御指導をありがとうございます。ポートフォリオでは、普段家庭では見せないような表情を捉えた写真やコメントをいただいて、本当にうれしく思っております。いつも先生からうかがった子供の様子を主人にも話して聞かせていますが、写真と文章があるおかげで主人もより具体的にイメージができるようで、話が弾みました。一方で、先生方が年に3回も園児全員のポートフォリオを作るのは、本当に大変だろうと感じています。「保育の見える化」の取組は、保護者にとっては本当に有り難いことですが、文科省の委託研究や園庭の改修、長期休暇の日数増加など、思い付くだけでもすでに様々な新しい取組をされている中で、更にクラスのドキュメンテーションや個々の園児のポートフォリオを作成するなんて、こんなに忙しくて先生達は大丈夫なんだろうかと、老婆心ながらちょっと心配になりました。先生方の負担が大ききようであれば、たとえば毎月の学級便りにもう少し写真を多く使ったり、カラーコピーにさせていただくなどしていただくことでも、十分「保育の見える化」の試みは保護者の心に届くのではないかと思います。

年長・保護者L 個人懇談でいただいたシートについての感想を述べさせていただきます。写真付きでパッと見て幼稚園生活を楽しんでいることがよくわかります。文章も先生の温かい気持ちがすごく伝わってきて親だけでなく先生方にも愛情を注がれていた記録として大切なものとなると思います。ただ、これを学期ごとに行うのは先生方の負担が大きいように思います。AGE（個人懇談）でもシートを見ながらお話ししてくださいましたし（先生の気持ちも直接聞けて嬉しいです。）コメント抜きで写真だけでも有り難いです。1、2学期は写真のみ、3学期は年間で選んだ写真一枚とコメントをいただけたらそれだけでも十分です。このような素敵なシートを作成いただきありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。

子どもの育ちの物語を 保護者の方と共有する

平成26年度 年少・預かり保育

研究内容

子どもの育ちを画像と文章でまとめることにより「学び・育ち」を保護者の方と共有する。

育ちを捉え、可視化するために…

園内研修

子どもの育ちをよりよく理解し、保育の実践や可視化をすることを目的として行う。

保育 ～子どもを捉える～

子どもの育ちを捉える視点を学び、保育を実践。

可視化する (Pシート・Dシートを中心に)

子どもの育ちの物語を保護者の方と共有するために、様々な手法で可視化に取り組む。

3月

〔幼稚園教育要領からみる
子どもの育ち〕

日々の取り組みをカリキュラムとあわせて確認し、子どもの育ちを客観的に把握するためのワークを行った。
子どもの姿(育ち)と、幼稚園教育要領を照らし合わせて保育を見ることで、幼児理解を深めることを実感した。



7月

〔子どもの育ちの読み取りを深める〕

“育ちの筋道”というキーワードを元に、子どもの心が動くこと、知りたいと思うこと、伝えたいと思うことなどに関して、子どもの意思を読み取るワークを行った。「育ちを分解することにより具体的な育ちがみえるようになった。」



12月

〔質を高める会議のもち方〕

保育者間で確認をしていたポートフォリオシート。今回のワークでは保育者同士がそのシミュレーションを行い、内容や方法について学んだ。相手の保育者に具体的な質問をすることで、シート作成者が自分の思いや表現したい子どもの姿など自分の感じていることを表出することができ、その有効性を感じた。



今年度の取り組みと課題

○ポートフォリオシート

→個々の育ちをシートにまとめ保護者に配布した。

○ドキュメントシート→クラスの育ちを捉え、掲示した。

○みんなの先生eyes→フリーの先生の視点で育ちを捉え掲示した。

○ひがしっ子クラブの様子を掲示

○写真でつづるカリキュラムづくり

○園長の今日もいい日

→園長の視点で園生活を保護者につたえる。

○行事のプロセスの可視化

→園まつりなどでのプロセス展示と保護者への発表

○クラスだより ○ホームページ

成果

○保育者自身が自分の保育を振り返り見つめることができた。

○画像によって成長を意識化することで、子どもたちの育ちや学びを深く理解しようとする意識が高まった。

○保育者の視線や伝えたいことは、単に話すよりも場面を画像で示すことにより保護者に伝わりやすいことが確認できた。

○保護者と保育や子どもの育ちを保育者の視線からも共有できた。

課題

○子どもの育ちが保護者に伝わりやすい記述について深めていく。

○保育者と保護者が連携して、子ども達を共に育てていけるような環境づくり。

○保育を可視化する取り組みを通して、情報を集約し業務のいっそうの効率化をはかる工夫。

7. まとめ

本研究では、学校評価の推進により各私立幼稚園の課題を解決し、保育の質を向上させるために、学校関係者評価の活性化及び公開保育を活用した学校評価実施支援システムの構築を図ろうとするものである。

学校評価の中心となるのは園長のリーダーシップにより各園の教員が主体的に取り組む自己評価であるが、その客観性、透明性を高めるには学校関係者評価に取り組むことが求められる。しかし、調査では自己評価の実施率に比較して学校関係者評価の実施率が極めて低い。その原因としては義務ではなく努力目標となっていること、具体的な学校関係者評価の実施方法が分からないこと、小学校以降の学校と比較して規模の小さい幼稚園では日常の教育活動に加えて評価活動に取り組むことが厳しい現状がある等が考えられる。又、その他の原因として園長自身が学校関係者評価の有効性を実感できていないために、学校関係者評価の必要性を感じていないことも考えられる。

今回の研究では2園で公開保育コーディネーター（評価者）を中心とした公開保育を実施するとともに学校関係者評価委員にも保育の参観と保育後の振り返りにも参加してもらい、その後にアンケート調査を行った。その結果等から以下のようなことが浮かび上がってきた。

①学校関係者評価委員が実際の保育を観ることの重要性

公開保育後に学校関係者評価委員へのアンケートでは、「公開保育を見学して改めて園の良さを感じることができた」という項目については、「非常にあてはまる」が全体の57%、「あてはまる」が43%で、両者を合わせる100%となり、学校関係者評価委員が公開保育を見学することは、園の良さを感じるために大変有効であることがわかる。また、学校関係者評価委員が公開保育を見学することで、「その遊びがひとつで完結するのではなく、全てがつながっていることを実感した。」、「家庭では育てることが難しい教育がここにはある。」、「環境の素晴らしさ。子供の目線に立って見るとわくわくする。」等、幼児教育における保育のプロセスの重要性や環境の重要性の理解につながった設備、環境の良さだけでなく、子供中心の活動、質の高い活動、年齢に応じた教育と、具体的な教育活動や子供の姿からその園の良さを理解している。

ただ、「重点的に取り組むべきと思われた課題」についての記述は少なく、幼稚園教育の専門家としての立場ではない委員が、公開保育を見学しただけで、その園の重点的に取り組むべき課題を見付け出すことは難しく、具体的な意見やアドバイスは他園からの参加者がその役割を担っていることがうかがえる。

「公開保育に参加して園に対して改めて協力していきたいと感じた」という項目については、大変有効で、

- ・地域全体で幼児教育を支えていかなければと感じた
- ・幼稚園・保育所・小学校の連携を更に進めたい
- ・特別な支援を必要とする子供への理解と対応についての情報交換
- ・外部の声を園に伝え、一致協力して更なる発展に貢献したい

- ・地域で共に運営する事業所として、できることは協力して行っていきたい

等、保護者、地域関係者とそれぞれの立場によってその回答は異なるが、目に見えにくい幼児期の育ちを多くの保護者に実感を持って伝える役割や運営面での支援、地域資源との連携など、委員がそれぞれの立場で園に協力する姿勢がうかがわれる。

「公開保育を行うことは園の教育の質の向上に有効であると感じた」という項目については、非常に肯定的に受け止められており、

- ・園の方針と実際の活動への理解が深まり、方向性に沿った意見をもらうことができる
- ・園の方針とは別な視点で、広く意見を聞く機会が確保される
- ・いろいろな視点から意見が寄せられ、気付かない点が見える
- ・日常の実践が支持されることで更に自信を持って教育に取り組むことができる
- ・意見を聞き、今後の改善につなげられる
- ・成果と課題が具体的に確認できる

等、園としての視野の広がり、課題の明確化と共に学校関係者評価委員が、園の方針や教育実践に関する理解が深まったことがうかがえる。

その他の意見として、

- ・子供たちのためにこれまでと同様、素晴らしい環境整備、人材育成を基礎にした幼児教育が行われることを期待している
- ・公開するということは、いろいろなことを考えて本当に勇気があることであると思うが、本園は積極的に取り組んでおりその姿勢が素晴らしい
- ・寄せられた意見を整理し、園運営の改善に活かしていることも、その効果として好感が持てる
- ・課題等について、しっかりと分析して処遇に活用できていることはとてもよい
- ・素晴らしい方針と実践、そしてその具現化が、しっかりと子供の姿で伝えられていることに感動した。説明責任を果たす手立てとして、最も大切だと思う。頑張ってください。心から応援します。

等、幼稚園の教育方針や実践の成果が、子供の育ちとして現れていることを評価している意見があり、実際の保育を見ることによって理解してもらえたようである。

また、このように園が積極的に保育を公開しようとするその姿勢そのものや、寄せられた意見を整理し、園運営の改善にどう活かすという教育の質向上を図る取組のプロセスを理解してもらえたことは信頼性の向上につながるとともに、園の応援団として支援していきたいという意識につながっていくことが期待できる。また、今回の取組では単に見学してもらうだけではなく、園として伸ばしていきたいという良さや解決したい課題をオープンにしていることで更に理解が深まり、園を支援していきたいという姿勢につながっていったことがうかがえる。保育参観から保育参加、参画というように保護者の理解が深まることは各地の実践の中で報告されているが、正に最も園の身近で支援する関係者評価委員に保育を公開し、園の良さや課題についての話合いに参加していただくことは大変重要である。園として自分たちだけがわかっていれば良いという考え方ではなく、子供を中心とした同心円状の広がり

の中で、子供の育ち、環境を通して教育、主体性の育ち、保育のプロセス等を理解し支援する輪を広げていきたい。そのスタートとして学校関係者評価委員会はあると言っても過言ではないであろう。

②可視化から共有化へ

義務教育以降の学校と比較して、その成果が社会には見えにくい幼児教育であるため、子供の育ちや幼児教育の重要性を社会と共有するためにいかに育ちを可視化し、共有化していくかは重要な課題である。義務感から学校関係者評価を活性化するのは難しいかもしれないが、子供が育つプロセスを面白くしていとおしく感じることで保護者を含め社会の幼児教育に向けるまなざしは変わってくるであろう。しかし、実態としては園内の教員間で子供の姿を共有することや課題を様々な手法で整理し、可視化することも充分には行われていない現状がある。

まずは園内の教員間で子供の姿から育ちを語り合うことから保護者と語り合い個々の子供の育ちや良さについて共有することが重要である。

平成 25 年度に公開保育を行った武蔵野東幼稚園では、公開保育を通して自園の課題が明らかになる中で個々の子供のポートフォリオを作成し、その育ちを保護者と共有する取組を始めた。その結果、保護者からは

- ・「幼稚園でプリンを作った」の言葉の中にこの様な物語があったのかと写真と先生のコメントを見て、その成長にうれしくなりました。「上手にできたのかな」で終わらせてしまったのを残念に思い、今よりもっともっとたくさんお話をしようと思いました。
- ・園で親のいないところでどのように過ごしているのかを垣間見ることができ、とても興味深く読ませていただきました。特に父親は私以上に園生活を知る機会が少ないので、見入っておりました。
- ・以前の懇談と比べるとシートがあったおかげで、より具体的な幼稚園での様子を知ることができたと思います。子供から聞く話だけだと正直話がよく分からないこともありますが、写真と先生から具体的な状況の説明もしていただいたことで、とてもそのときの状況がよくわかりました。
- ・幼稚園に入り少しずつできるようになる成長の過程が形として残っていくのは、大変有り難いことだと思いました。また、懇談でのお話だけよりも、より先生がどのように我が子を見てくださっているのかがわかり、とてもうれしかったです。
- ・正直驚きました。普段私が見ている息子は、幼稚園の姿とは逆で常々心配をしていました。しかし、幼稚園という社会の中で自分なりにこれじゃいけないと気づき、成長をしている姿を見られてうれしいの一言です。
- ・虫に触れないと決め付けていましたが、ダンゴムシを掴んで観察している姿にびっくりしました。目からウロコが落ちました。主人は単身赴任中で子供と離れて暮らしているので、幼稚園での写真に感動し、メッセージを書いていました。

等、保護者自身が子供のことを理解するきっかけになったり、教師への信頼が深まったこ

とがうかがえる。このことは話だけでは伝わらず、実際の姿と教師の「私たちはこんなふう
に子供たちの育ちとして、良さとして観ていますよ。」というコメントがあることにより伝
わっていったのであろう。学校関係者評価を進めるためにはまず個々の子供の姿を教師間で
語り合い、共有していくことからはじめ、その語り合ったことを保護者とも共有していく
ことが必要であろう。共有する手立てなしには関係者との協力も支援も難しいであろう。

③成果と今後の課題

公開保育コーディネーター（評価者）のコーディネートにより保育を公開し、実際の保育
場面を基に保育の良さや課題を話し合うことで公開園は自覚的な良さや課題に加えて公開保
育参加者から様々な気づきを得て、園の教育の質を向上させることが可能となっている。

コーディネーター（評価者）だけでは園内の様々な場면을細かく捉えて質の向上につなげ
ることは難しいが、公開保育参加者の存在があることにより保育の場面で起っている様々な
ことを話し合うことが可能になっている。また、参加者のまなざしが非常に温かく、支持的
でその園の保育が良くなることを願いつつ参加している雰囲気が公開園の教員に伝わってい
る。

私立幼稚園においては学校関係者評価委員会では課題の解決は難しいが、一定地域内の教
員同士であるからこそ具体的な意見やアドバイスをを得ることが可能である。課題が明らか
になり、課題解決の方向性も具体化していく中で「他園の参加者からの意見により課題を解決
できる部分」「学校関係者評価委員の支援により運営面で解決していく部分」というように
幼児教育の質を向上させていくに当たり、役割が明確になってきている。今後の課題として、
最終的に学校評価を推進し、質向上を図るには園長や主任・中堅教諭のリーダーシップが重
要であり、全教職員が自己評価に主体的に取り組むことが必要である。しかし、コーデ
ィネーター（評価者）からのアンケートでは公開園の園長・主任等の説明に不安を抱えているなど、
公開園の今後の質向上は園長・主任等の園のリーダーの姿勢に大きく左右される。

子供の姿から話し合う風土を醸成するために保育のリーダーとしての園長・主任等中堅教
員の資質を向上させる仕組みが必要であろう。

■私立幼稚園における学校評価実施支援システムに関する研究検討委員会

田中 雅道	京都府・光明幼稚園
安家 周一	大阪府・あけぼの幼稚園
安達 譲	大阪府・せんりひじり幼稚園
宮下友美恵	静岡県・静岡豊田幼稚園
黒田 秀樹	福岡県・きらきら星幼稚園
藪 淳一	北海道・大通幼稚園
坂水 かよ	岩手県・聖パウロ幼稚園
櫛渕 洋介	群馬県・ちぐさ幼稚園
高倉 幸世	千葉県・コスモス幼稚園
谷畑 工	埼玉県・新所沢こひつじ幼稚園
関 政子	東京都・やはた幼稚園
鮎川 正	石川県・木の花幼稚園
磯野 おわ	愛知県・国風第三幼稚園
濱名 浩	兵庫県・立花愛の園幼稚園
中邑 隆哉	山口県・岩国中央幼稚園
檜村 文夫	香川県・のぞみ幼稚園
川原恒太郎	大分県・ひまわり幼稚園
岡本 潤子	青森県・千葉幼稚園
加藤 篤彦	東京都・武蔵野東第二幼稚園
亀ヶ谷忠宏	神奈川県・宮前幼稚園
秦 賢志	兵庫県・はまようちえん

■協力者

岡 健	東京都・大妻女子大学
-----	------------

本報告書は、文部科学省の幼児教育の改善・充実調査研究委託費による委託業務として、公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が実施した平成26年度幼児教育の改善・充実調査研究の成果を取りまとめたものです。したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。